

IBM Marketing Operations

バージョン 9 リリース 1

2013 年 10 月 25 日

インストール・ガイド

IBM

— お願い —

本書および本書で紹介する製品をご使用になる前に、115 ページの『特記事項』に記載されている情報をお読みください。

本書は、IBM Marketing Operations バージョン 9 リリース 0 モディフィケーション 0 および新しい版で明記されていない限り、以降のすべてのリリースおよびモディフィケーションに適用されます。

お客様の環境によっては、資料中の円記号がバックスラッシュと表示されたり、バックスラッシュが円記号と表示されたりする場合があります。

原典： IBM Marketing Operations
Version 9 Release 1
October 25, 2013
Installation Guide

発行： 日本アイ・ビー・エム株式会社

担当： トランスレーション・サービス・センター

© Copyright IBM Corporation 2002, 2012.

目次

第 1 章 インストールの概要	1
インストール・ロードマップ	1
インストーラーの機能	3
インストールのモード	3
Marketing Operations の資料とヘルプ	4
第 2 章 Marketing Operations インストールの計画	7
前提条件	7
Marketing Operations データ・ソース情報ワークシート	9
IBM EMM 製品のインストール順序	9
Marketing Operations および Marketing Platform のインストール先	11
第 3 章 IBM Marketing Operations のデータ・ソースの準備	13
Marketing Operations システム・テーブル・データベースまたはスキーマの作成	13
IBM DB2 データベースのテーブル・スペース	13
JDBC ドライバーを使用できるように Web アプリケーション・サーバーを構成する	14
JDBC 接続を Web アプリケーション・サーバーに作成する	15
第 4 章 Marketing Operations のインストール	19
GUI モードを使用した Marketing Operations のインストール	20
コンソール・モードを使用した Marketing Operations のインストール	26
Marketing Operations のサイレント・インストール	27
サンプル応答ファイル	28
インストーラーの実行後に EAR ファイルを作成する	29
JAVA 環境変数	30
インストールのプロンプト・ウィンドウ	30
第 5 章 配置の前に IBM Marketing Operations を構成する	33
Marketing Operations の手動登録	33
Marketing Operations システム・テーブルの作成およびデータ設定	34
環境変数の設定	37
第 6 章 IBM Marketing Operations の配置	39
Websphere での Marketing Operations の配置	39
WAR または EAR ファイルの配置	40
Cookie の設定の定義	42

EAR モジュール設定の定義	42
WebLogic での Marketing Operations の配置	43

第 7 章 配置後の IBM Marketing Operations の構成	45
インストールの検証	45
asm_admin ユーザーに Marketing Operations へのアクセス権限を付与する	46
マークアップ・オプションの構成	46
E メール設定の構成	48
Campaign との統合の構成	48
統合システム用の DB2 データベースの構成	49

第 8 章 レポートのインストール	51
レポートの次のステップ	51

第 9 章 概要	53
WebSphere のガイドライン	53
WebLogic のガイドライン	56
共有フォルダー・プロパティの構成	58
ehcache の構成	59

第 10 章 Marketing Operations のアンインストール	63
--	-----------

第 11 章 configTool	65
--------------------------	-----------

第 12 章 IBM Marketing Operations 構成プロパティ	71
Marketing Operations	71
Marketing Operations navigation	71
Marketing Operations バージョン情報	73
Marketing Operations umoConfiguration	74
Marketing Operations umoConfiguration Approvals	80
Marketing Operations umoConfiguration templates	80
Marketing Operations umoConfiguration attachmentFolders	82
Marketing Operations umoConfiguration Email	84
Marketing Operations umoConfiguration markup	85
Marketing Operations umoConfiguration grid	87
Marketing Operations umoConfiguration workflow	88
Marketing Operations umoConfiguration integrationServices	90
Marketing Operations umoConfiguration campaignIntegration	91
Marketing Operations umoConfiguration reports	91
Marketing Operations umoConfiguration invoiceRollup	92
Marketing Operations umoConfiguration database	93
Marketing Operations umoConfiguration listingPages	96

Marketing Operations umoConfiguration	
objectCodeLocking	97
Marketing Operations umoConfiguration	
thumbnailGeneration	99
Marketing Operations umoConfiguration Scheduler	
intraDay	100
Marketing Operations umoConfiguration Scheduler	
daily	100
Marketing Operations umoConfiguration	
Notifications	101
Marketing Operations umoConfiguration	
Notifications Email	103
Marketing Operations umoConfiguration	
Notifications project	105
Marketing Operations umoConfiguration	
Notifications projectRequest	107

Marketing Operations umoConfiguration	
Notifications program	108
Marketing Operations umoConfiguration	
Notifications marketingObject	108
Marketing Operations umoConfiguration	
Notifications approval	109
Marketing Operations umoConfiguration	
Notifications asset.	110
Marketing Operations umoConfiguration	
Notifications invoice	111

IBM 技術サポートへの連絡 113

特記事項. 115

商標	117
プライバシー・ポリシーおよび利用条件の考慮事項	117

第 1 章 インストールの概要

Marketing Operations のインストールは、Marketing Operations をインストール、構成、および配置すると完了します。「Marketing Operations インストール・ガイド」には、Marketing Operations のインストール、構成、および配置に関する詳細情報が示されています。

『インストール・ロードマップ』セクションを利用すると、「Marketing Operations インストール・ガイド」の使用について幅広く理解することができます。

インストール・ロードマップ

インストール・ロードマップを使用して、Marketing Operations のインストールに必要な情報を素早く見つけることができます。

表 1 を使用して、Marketing Operations をインストールするために実行する必要のあるタスクをスキャンできます。次の表の「説明」列には、Marketing Operations をインストールするためのタスクについて説明したトピックへのリンクが示されています。

表 1. Marketing Operations インストール・ロードマップ

トピック	説明
『第 1 章 インストールの概要』	このトピックには、以下の情報が含まれています。 • 3 ページの『インストーラーの機能』 • 3 ページの『インストールのモード』. • 4 ページの『Marketing Operations の資料とヘルプ』.
7 ページの『第 2 章 Marketing Operations インストールの計画』	このトピックには、以下の情報が含まれています。 • 7 ページの『前提条件』 • 9 ページの『Marketing Operations データ・ソース情報ワークシート』. • 9 ページの『IBM EMM 製品のインストール順序』
13 ページの『第 3 章 IBM Marketing Operations のデータ・ソースの準備』	このトピックには、以下の情報が含まれています。 • 13 ページの『Marketing Operations システム・テーブル・データベースまたはスキーマの作成』 • 14 ページの『JDBC ドライバーを使用できるように Web アプリケーション・サーバーを構成する』 • 15 ページの『JDBC 接続を Web アプリケーション・サーバーに作成する』

表 1. Marketing Operations インストール・ロードマップ (続き)

トピック	説明
19 ページの『第 4 章 Marketing Operations のインストール』	20 ページの『GUI モードを使用した Marketing Operations のインストール』. 26 ページの『コンソール・モードを使用した Marketing Operations のインストール』 27 ページの『Marketing Operations のサイレント・インストール』 30 ページの『インストールのプロンプト・ウィンドウ』 29 ページの『インストーラーの実行後に EAR ファイルを作成する』 30 ページの『JAVA 環境変数』 30 ページの『インストールのプロンプト・ウィンドウ』
33 ページの『第 5 章 配置の前に IBM Marketing Operations を構成する』	このトピックには、以下の情報が含まれています。 33 ページの『Marketing Operations の手動登録』 34 ページの『Marketing Operations システム・テーブルの作成およびデータ設定』 37 ページの『環境変数の設定』
39 ページの『第 6 章 IBM Marketing Operations の配置』	このトピックには、以下の情報が含まれています。 39 ページの『Websphere での Marketing Operations の配置』 43 ページの『WebLogic での Marketing Operations の配置』
45 ページの『第 7 章 配置後の IBM Marketing Operations の構成』	このトピックには、以下の情報が含まれています。 46 ページの『asm_admin ユーザーに Marketing Operations へのアクセス権限を付与する』 46 ページの『マークアップ・オプションの構成』 48 ページの『E メール設定の構成』 48 ページの『Campaign との統合の構成』 45 ページの『インストールの検証』
51 ページの『第 8 章 レポートのインストール』	このトピックには、以下の情報が含まれています。 51 ページの『レポートの次のステップ』

表 1. Marketing Operations インストール・ロードマップ (続き)

トピック	説明
53 ページの『第 9 章 概要』	このトピックには、以下の情報が含まれています。 53 ページの『WebSphere のガイドライン』 56 ページの『WebLogic のガイドライン』 58 ページの『共有フォルダー・プロパティの構成』 59 ページの『ehcache の構成』
63 ページの『第 10 章 Marketing Operations のアンインストール』	このトピックには、Marketing Operations のアンインストール方法についての情報が示されています。
65 ページの『第 11 章 configTool』	Marketing Operations の構成ツール・ユーティリティーについて詳しく説明しています。

インストーラーの機能

どの IBM® EMM 製品をインストールする場合も、スイート・インストーラーおよび製品インストーラーを使用する必要があります。例えば Marketing Operations をインストールする場合は、IBM EMM スイート・インストーラーおよび IBM Marketing Operations インストーラーを使用する必要があります。

IBM EMM スイート・インストーラーおよび製品インストーラーを使用する前に、以下のガイドラインを確認してください。

- スイート・インストーラーおよび製品インストーラーは、製品のインストール先のコンピューターの同じディレクトリーにある必要があります。ディレクトリー内にマスター・インストーラーと共に複数のバージョンの製品インストーラーがある場合、マスター・インストーラーは常に製品の最新バージョンを、インストール・ウィザードの IBM EMM 製品画面に表示します。
- IBM EMM 製品のインストール直後にパッチをインストールする場合は、パッチのインストーラーがスイートおよび製品のインストーラーと同じディレクトリーにあるようにしてください。
- IBM EMM インストールのデフォルトの最上位ディレクトリーは /IBM/EMM (UNIX) または C:\IBM\EMM (Windows) です。ただし、このディレクトリーはインストール時に変更できます。

インストールのモード

IBM EMM スイート・インストーラーは、GUI モード、コンソール・モード、またはサイレント・モード (無人モードとも呼ぶ) のいずれかのモードで実行できます。Marketing Operations をインストールする際は要件に見合ったモードを選択してください。

GUI モード

グラフィカル・ユーザー・インターフェースを使用して Marketing Operations をインストールするには、Windows の GUI モード、または UNIX の X Window System モードを使用します。

コンソール・モード

コマンド・ライン・ウィンドウを使用して Marketing Operations をインストールするには、コンソール・モードを使用します。

注: コンソール・モードでインストーラー画面を正しく表示するには、UTF-8 文字エンコードをサポートするように端末ソフトウェアを構成してください。ANSI などその他の文字エンコードでは、テキストが正しくレンダリングされず、一部の情報が読み取れなくなります。

サイレント・モード

Marketing Operations を複数回インストールするには、サイレント・モード (無人モード) を使用します。サイレント・モードは、インストールに応答ファイルを使用し、インストール・プロセスの間にユーザー入力が必要としません。

Marketing Operations の資料とヘルプ

以下の表では、Marketing Operations のインストールに関する様々なタスクについて説明しています。「資料」列には、タスクに関して詳しい情報が記載されている資料の名前が含まれています。

表 2. 起動して稼働状態にする

タスク	資料
新機能、既知の問題、および回避策についてのリストを表示	<i>IBM Marketing Operations</i> リリース・ノート
Marketing Operations のインストールまたはアップグレード、および Marketing Operations Web アプリケーションの配置	以下のいずれかのガイド: <i>IBM Marketing Operations</i> インストール・ガイド <i>IBM Marketing Operations</i> アップグレード・ガイド

以下の表には、Marketing Operations における管理タスクが記述されています。「資料」列には、タスクに関して詳しい情報が記載されている資料の名前が含まれています。

表 3. Marketing Operations の構成および使用

タスク	資料
• ユーザー用にシステムをセットアップおよび構成する • セキュリティー設定の調整 • テーブルのマッピング、およびオファー・テンプレートとカスタム属性の定義 • ユーティリティーの実行およびメンテナンスの実行	IBM Marketing Operations 管理者ガイド
• マーケティング・キャンペーンの作成と配置 • キャンペーン結果の分析	IBM Marketing Operations ユーザー・ガイド

以下の表には、Marketing Operations のオンライン・ヘルプおよび PDF の取得に関する情報が含まれています。「説明」列には、オンライン・ヘルプの開き方および Marketing Operations の文書へのアクセス方法が説明されています。

表 4. ヘルプの入手

タスク	説明
オンライン・ヘルプを開く	1. 「ヘルプ」 > 「このページのヘルプ」を選択して、コンテキスト・ヘルプ・トピックを開きます。 2. ヘルプ・ウィンドウ内の「ナビゲーションの表示 (Show Navigation)」アイコンをクリックすると、ヘルプ全体が表示されます。
PDF の取得	以下のいずれかの方法に従います: • 「ヘルプ」 > 「製品資料」を選択すると、Marketing Operations PDF を利用できます。 • 利用可能なすべての資料へアクセスするには、「ヘルプ」 > 「IBM EMM Suite のすべての資料」を選択します。
サポートを受ける	http://www.ibm.com/support へアクセスし、「Support & downloads」をクリックして IBM サポート・ポータルへアクセスします。

第 2 章 Marketing Operations インストールの計画

Marketing Operations のインストールを計画するとき、システムを正しくセットアップしたこと、および障害がある場合にはそれに対処するように環境を構成したことを確認してください。

前提条件

IBM EMM 製品をインストールまたはアップグレードするには、その前に、ご使用のコンピューターがすべてのソフトウェアおよびハードウェアの前提条件を満たしていることを確認する必要があります。

システム要件

システム要件について詳しくは、「*Recommended Software Environments and Minimum System Requirements*」ガイドを参照してください。

ネットワーク・ドメイン要件

スイートとしてインストールされる IBM EMM 製品は同じネットワーク・ドメインにインストールする必要があります。これは、クロスサイト・スクリプティングで生じ得るセキュリティー・リスクを制限することを目的としたブラウザー制限に準拠するためです。

JVM 要件

スイート内の IBM EMM アプリケーションは、専用の Java™ 仮想マシン (JVM) に配置しなければなりません。IBM EMM 製品は、Web アプリケーション・サーバーによって使用される JVM をカスタマイズします。JVM に関連するエラーが発生する場合、IBM EMM 製品専用の Oracle WebLogic または WebSphere®ドメインを作成する必要があります。

知識要件

IBM EMM 製品をインストールするには、製品をインストールする環境全般に関する知識が必要です。この知識には、オペレーティング・システム、データベース、および Web アプリケーション・サーバーに関する知識が含まれます。

インターネット・ブラウザー設定

ご使用のインターネット・ブラウザーが、以下の設定に準拠していることを確認してください。

- ブラウザーで Web ページをキャッシュしない。
- ブラウザーはポップアップ・ウィンドウをブロックしてはなりません。

アクセス権限

インストール作業を完了するため、以下のネットワーク権限を保持していることを確認してください。

- 必要なすべてのデータベースに対する管理アクセス権限。
- Web アプリケーション・サーバーおよび IBM EMM コンポーネントを実行するために使用するオペレーティング・システム・アカウントの関連ディレクトリーおよびサブディレクトリーに対する読み取りおよび書き込みアクセス権限
- 編集する必要があるすべてのファイルに対する書き込み権限
- インストール・ディレクトリーやバックアップ・ディレクトリー (アップグレードを行う場合) など、ファイルを保存する必要があるすべてのディレクトリーに対する書き込み権限
- インストーラーを実行するための適切な読み取り/書き込み/実行権限

Web アプリケーション・サーバーの管理パスワードを保持していることを確認してください。

UNIX の場合、IBM 製品のすべてのインストーラー・ファイルはフル権限 (例えば、`rwxr-xr-x`) が必要です。

JAVA_HOME 環境変数

IBM EMM 製品をインストールするコンピューターに **JAVA_HOME** 環境変数が定義されている場合、サポートされる JRE のバージョンがこの変数で指定されていることを確認してください。システム要件について詳しくは、「*Recommended Software Environments and Minimum System Requirements*」ガイドを参照してください。

JAVA_HOME 環境変数が JRE 1.6 を指していることを確認します。**JAVA_HOME** 環境変数が正しくない JRE を指している場合、IBM EMM インストーラーを実行する前に、その **JAVA_HOME** 変数をクリアする必要があります。

以下のいずれかの方法により、**JAVA_HOME** 環境変数をクリアできます。

- Windows: コマンド・ウィンドウで、**set JAVA_HOME=** (空のままにする) と入力して、Enter キーを押します。
- UNIX: 端末で、**export JAVA_HOME=** (空のままにする) と入力して、Enter キーを押します。

export JAVA_HOME= (空のままにする)

環境変数をクリアした後、IBM EMM インストーラーは、インストーラーにバンドルされている JRE を使用します。インストールが完了した後で、環境変数をリセットすることができます。

Marketing Platform の要件

何らかの IBM EMM 製品をインストールする前に、Marketing Platform をインストールする必要があります。一緒に機能する製品のグループごとに、Marketing Platform を 1 回だけインストールする必要があります。各製品インストーラーは、必要な製品がインストールされているかどうかを検査します。ご使用の製品またはバージョンが Marketing Platform に登録されていない場合、インストールを続行す

る前に、Marketing Platform をインストールまたはアップグレードすることを求めるメッセージが表示されます。「設定」>「構成」ページにいずれかのプロパティを設定するには、その前に、Marketing Platform がデプロイされ、稼働していなければなりません。

Marketing Operations データ・ソース情報ワークシート

Marketing Operations のインストールに必要な Marketing Operations データベースおよび他の IBM EMM 製品についての情報を集めるには、Marketing Operations インストール用ワークシートを使用します。

表 5. データ・ソース情報ワークシート

項目	値
データ・ソース・タイプ	
データ・ソース名	
データ・ソースのアカウント・ユーザー名	
データ・ソースのアカウント・パスワード	
JNDI 名	p1ands
JDBC ドライバーへのパス	

IBM EMM 製品のインストール順序

複数の IBM EMM 製品をインストールまたはアップグレードするときは、それらを特定の順序でインストールする必要があります。

次の表には、複数の IBM EMM 製品をインストールまたはアップグレードするときに従う必要のある順序についての情報が示されています。

表 6. IBM EMM 製品のインストールまたはアップグレードの順序

製品または組み合わせ:	インストールまたはアップグレードの順序:
Campaign (eMessage 付きまたはなし)	1. Marketing Platform 2. Campaign 注: eMessage は、Campaign をインストールする際に自動的にインストールされます。ただし、eMessage が Campaign インストール・プロセス中に構成されたり有効にされたりすることはありません。

表 6. IBM EMM 製品のインストールまたはアップグレードの順序 (続き)

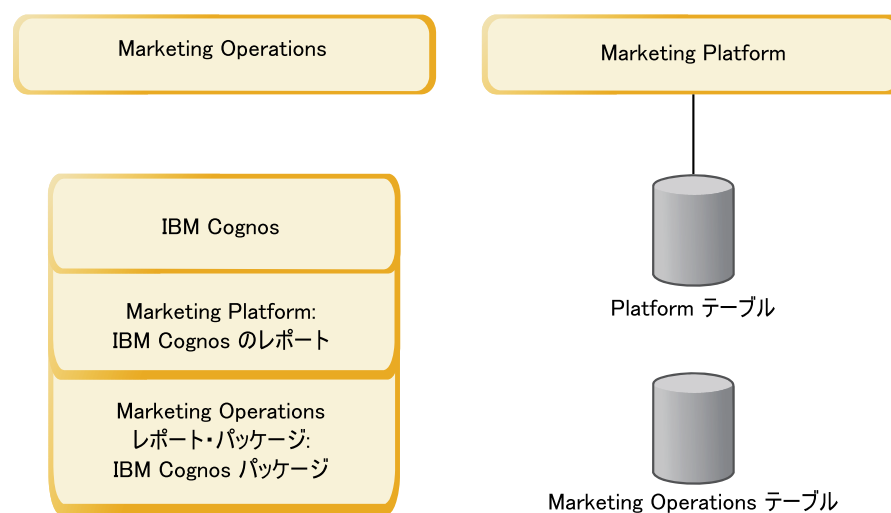
製品または組み合わせ:	インストールまたはアップグレードの順序:
Interact	1. Marketing Platform 2. Campaign 3. Interact 設計時環境 4. Interact ランタイム環境 5. Interact Extreme Scale サーバー Interact 設計時環境だけをインストールまたはアップグレードする場合、Interact 設計時環境を以下の順序でインストールまたはアップグレードします。 1. Marketing Platform 2. Campaign 3. Interact 設計時環境 Interact ランタイム環境だけをインストールまたはアップグレードする場合、Interact ランタイム環境を以下の順序でインストールまたはアップグレードします。 1. Marketing Platform 2. Interact ランタイム環境 Interact Extreme Scale サーバーだけをインストールする場合、Interact Extreme Scale サーバーを以下の順序でインストールします。 1. Marketing Platform 2. Interact ランタイム環境 3. Interact Extreme Scale サーバー
Marketing Operations	1. Marketing Platform 2. Marketing Operations 注: Marketing Operations を Campaign に統合する場合、Campaign もインストールする必要があります。それら 2 つの製品は任意の順序でインストールできます。
Distributed Marketing	1. Marketing Platform 2. Campaign 3. Distributed Marketing
Interaction History	1. Marketing Platform 2. Interaction History
Attribution Modeler	1. Marketing Platform 2. Interaction History 3. Attribution Modeler
Contact Optimization	1. Marketing Platform 2. Campaign 3. Contact Optimization

表 6. IBM EMM 製品のインストールまたはアップグレードの順序 (続き)

製品または組み合わせ:	インストールまたはアップグレードの順序:
Opportunity Detection	1. Marketing Platform 2. Opportunity Detection Opportunity Detection が Interact に統合されている場合、製品を以下の順序でインストールします。 1. Marketing Platform 2. Campaign 3. Interact 4. Opportunity Detection
IBM SPSS® Modeler Advantage Marketing Edition	1. IBM SPSS Modeler Advantage Marketing Edition

Marketing Operations および Marketing Platform のインストール先

以下の図は、Marketing Operations をインストールする場所についての概要を簡潔に示しています。これは、最も基本的な機能インストールです。セキュリティ上およびパフォーマンス上の要件を満たすため、より複雑な、まったく異なるインストールが必要になることがあります。



Marketing Operations: 最大限のパフォーマンスを実現するため、Marketing Operations は、専用のマシン (他の IBM EMM 製品がインストールされていないマシン)、または Marketing Platform とのみ共有するマシンにインストールしてください。

Marketing Operations システム・テーブルは別のマシンに置く必要があります。

Marketing Operations レポート・パッケージ: Marketing Operations のレポート・パッケージには IBM Cognos® パッケージのみが含まれています (他のアプリケーション

ンには構成すべきレポート・スキーマもありますが、Marketing Operations にはありません)。レポート・パッケージは IBM Cognos システムにインストールしてください。

Marketing Platform: Marketing Platform アプリケーションには、IBM 共通のナビゲーション機能、レポート機能、ユーザー管理機能、セキュリティー機能、スケジューリング機能、および構成管理機能が含まれています。IBM EMM 環境ごとに、Marketing Platform を 1 回インストールして配置する必要があります。

第 3 章 IBM Marketing Operations のデータ・ソースの準備

Marketing Operations ワークシートを使用して、Marketing Operations をインストールする際に必要な情報を入力できます。

この章の終わりにある 9 ページの『Marketing Operations データ・ソース情報ワークシート』を印刷してください。そして、この章に記載されているそれぞれの作業が完了するたびに、チェックリストに情報を記入してください。この情報を書き留めておくと、後でインストール・プロセスで IBM インストーラーを実行するときにデータベース接続情報を簡単に入力できるようになります。

Marketing Operations システム・テーブル・データベースまたはスキーマの作成

データベース管理者の支援を受けながら、Marketing Operations システム・テーブル・データベースまたはスキーマを作成します。データベースを作成した後に、将来の参照用にデータ・ソース情報ワークシートを完成させます。

以下の手順を実行して、Marketing Operations システム・テーブル・データベースまたはスキーマを作成します。

1. データベース管理者と共に作業して、Marketing Operations に必要なデータベースを作成します。
2. 後のインストール処理で自身がシステム・ユーザーに指定するアカウントを、データベース管理者に作成してもらいます。

このアカウントには、必要に応じて、表とビューの両方に関する CREATE、SELECT、INSERT、UPDATE、DELETE、および DROP 権限が必要です。さらに、以下も必要です。

- データベースでは UTF-8 エンコード方式を使用する必要があります。
 - SQL サーバーを使用している場合は、TCP/IP が有効になっていることを確認してください。
 - DB2® を使用している場合は、テーブル・スペースのバッファーク・プールが少なくとも 32K あることを確認してください。
3. 9 ページの『Marketing Operations データ・ソース情報ワークシート』を印刷し、必要事項を記入します。情報は、後にインストール処理で使用します。

IBM DB2 データベースのテーブル・スペース

DB2 データベースは、データベース管理スペース (DMS) テーブル・スペースを管理します。テーブル・スペースは、DB2 表が保管されるデータ・セットが含まれる保管場所です。Marketing Operations をインストールする前に、IBM DB2 データベース用のテーブル・スペースを作成してください。

アプリケーション・データ用に以下の種類のテーブル・スペースを指定できます。

- オンライン・トランザクション処理 (OLTP) データのテーブル・スペース。このテーブル・スペースを使用して、アプリケーションからのトランザクション・データを保管します。
- OLTP インデックスのテーブル・スペース。 OLTP データ・テーブルへのアクセス用に作成されたインデックスを保管するには、このテーブル・スペースを使用します。
- Discussion Support System (DSS) データのテーブル・スペース。 DSS スキーマ内にロードされる OLTP データを保管するには、このテーブル・スペースを使用します。 DSS スキーマは、アプリケーションのアクティビティのレポートが生成しやすくなるように、OLTP からのデータを編成します。
- DSS インデックスのテーブル・スペース。 DSS データ・テーブルへのアクセス用に作成されたインデックスを保管するには、このテーブル・スペースを使用します。

テーブル・スペースの名前、およびデータベースの作成場所であるサーバーの名前を書き留めておきます。 Marketing Operations をインストールする前に、これらのテーブル・スペースが存在する必要があります。 OLTP データおよび DSS データのテーブル・スペースにそれぞれ少なくとも 100 MB のスペースを、さらに OLTP インデックスおよび DSS インデックスのテーブル・スペースにそれぞれ少なくとも 50 MB のスペースを割り振る必要があります。

4 つすべてのテーブル・スペースを保守する必要がある場合は、インストール・プログラムで複数のフィールドに同じテーブル・スペースを指定できます。例えば、OLTP データ・テーブルと OLTP インデックス・テーブルに同じテーブル・スペースを指定したり、4 種類のテーブルすべてに単一のテーブル・スペースを指定したりできます。テーブル・スペースに書き込まれるすべてのテーブル用に、十分なスペースを割り振ってください。

加えて、少なくとも 10 MB の一時 (TMP) テーブル・スペースが必要です。

Marketing Operations のインストール時に指定されるデータベース・ユーザーは、これらのテーブル・スペースに関連付けられているか、テーブル・スペースを管理する権限を持っている必要があります。 Leads アプリケーションは、これらのテーブル・スペース内にスキーマを作成して初期データを書き込むことができる必要があります。

JDBC ドライバーを使用できるように Web アプリケーション・サーバーを構成する

Web アプリケーション・サーバーは、Marketing Operations をインストールする前に構成する必要があります。すべての主なデータベース・タイプは、IBM EMM テーブルをサポートします。ご使用のデータベース・タイプに合わせて JDBC ドライバーを選択します。

以下の手順によって、Marketing Operations インストール環境のための正しい JDBC ドライバーを入手し、それを使用できるように Web アプリケーション・サーバーを構成します。

注: Marketing Platform がインストールされている同じマシンに Marketing Operations をインストールする場合、このタスクは既に完了しています。『JDBC 接続を Web アプリケーション・サーバーに作成する』に進みます。

1. 使用する予定であるデータベースの最新のタイプ 4 JDBC ドライバー、および必要な関連ファイル (例えば、Oracle ではいくつかの関連ファイルが必要となる) を入手します。

常に、ベンダーが提供する最新のタイプ 4 ドライバーを使用してください。

- Marketing Operations のインストール先のマシンにドライバーが存在しない場合は、ドライバーを入手し、それを Marketing Operations マシンの任意の場所にコピーします。
- データベース・クライアントがインストールされているマシンからドライバーを入手する場合は、そのバージョンがデータベース・ベンダーによって提供された最新のものであることを確認してください。サポートされる JDBC ドライバーのリストについては、IBM コンサルタントに確認してください。

以下のリストは、IBM EMM システム・テーブル用にサポートされるデータベース・タイプに対応したドライバー・ファイルの名前を示します。

表 7. サポートされるデータベース・タイプとドライバー

データベース・タイプ	JRE 1.6 用ファイル
Oracle 11	該当なし
Oracle 11g	ojdbc6.jar
DB2 9.7	db2jcc.jar db2jcc_license_cu.jar
DB2 10.1	db2jcc4.jar
SQL Server 2005、2008	sqljdbc4.jar (JDBC3 使用)

2. 以下のように、Marketing Operations を配置する予定の Web アプリケーション・サーバーの CLASSPATH に、ドライバーへの絶対パスを組み込みます。
 - サポートされるすべてのバージョンの WebLogic で、DOMAIN_DIR%bin%setDomainEnv.cmd の CLASSPATH 変数に jar ファイルを追加します。Web アプリケーション・サーバーが正しいドライバーを使用するようにするためには、ご使用のドライバーが CLASSPATH 値の最初のエントリーでなければなりません。例えば、SQL Server を使用する場合は、パスを以下のように設定します。

```
set CLASSPATH=c:%SQLDRIVER%sqljdbc.jar;%PRE_CLASSPATH%;  
%WEBLOGIC_CLASSPATH%; %POST_CLASSPATH%;%WLP_POST_CLASSPATH%
```

- サポートされるすべてのバージョンの WebSphere について、管理コンソールで CLASSPATH を設定します。

JDBC 接続を Web アプリケーション・サーバーに作成する

Marketing Operations Web アプリケーションは、JDBC 接続を使用して、システム・テーブル・データベースおよび IBM Marketing Platform システム・テーブル・データベースと通信します。

重要: Marketing Operations システム・テーブルを保管するデータベースへの接続に対しては、Java™ Naming and Directory Interface (JNDI) 名として `plands` を使用する必要があります。この値は、必須の JNDI 名です。

重要: Marketing Platform システム・テーブルを保管するデータベースへの接続に対しては、JNDI 名として `UnicaPlatformDS` を使用する必要があります。これは、必須の JNDI 名です。Marketing Operations と Marketing Platform を同じ JVM に配置する場合は、この接続が既に存在している必要があります。

Marketing Operations で多数の同時ユーザーが予想される場合は、Web サーバーの接続数を増やさなければならない可能性があります。最良の結果を得るためには、50 個の接続を許可するように Web サーバーを設定します。

JDBC 接続を作成するための情報

特定の値が示されない場合は、JDBC 接続の作成時にデフォルト値を使用します。詳しくは、アプリケーション・サーバーの資料を参照してください。

注: データベースのデフォルト・ポート設定を使用しない場合は、正しい値に必ず変更してください。

WebLogic

アプリケーション・サーバーが WebLogic である場合は、以下の値を使用します。

SQLServer

- データベース・ドライバ: Microsoft MS SQL Server ドライバ (タイプ 4) バージョン: 2008、2008R2
- デフォルト・ポート: 1433
- ドライバ・クラス: `com.microsoft.sqlserver.jdbc.SQLServerDriver`
- ドライバ URL: `jdbc:sqlserver://
<your_db_host>:<your_db_port>;databaseName=<your_db_name>`
- プロパティ: `user=<your_db_user_name>` を追加

Oracle 11 および 11 g

- ドライバ: その他
- デフォルト・ポート: 1521
- ドライバ・クラス: `oracle.jdbc.OracleDriver`
- ドライバ URL:
`jdbc:oracle:thin:@<your_db_host>:<your_db_port>:<your_db_service_name>`

示されている形式を使ってドライバ URL を入力してください。IBM EMM アプリケーションでは、JDBC 接続に対する Oracle の RAC (Real Application Cluster) 形式の使用は許可されていません。

- プロパティ: `user=<your_db_user_name>` を追加

DB2

- ドライバ: その他
- デフォルト・ポート: 50000

- ドライバー・クラス: `com.ibm.db2.jcc.DB2Driver`
- ドライバー URL: `jdbc:db2://<your_db_host>:<your_db_port>/<your_db_name>`
- プロパティ: `user=<your_db_user_name>` を追加

WebSphere

アプリケーション・サーバーが WebSphere である場合は、以下の値を使用します。

SQLServer

- ドライバー: 該当なし
- デフォルト・ポート: 1433
- ドライバー・クラス:
`com.microsoft.sqlserver.jdbc.SQLServerConnectionPoolDataSource`
- ドライバー URL: 該当なし

「データベース・タイプ」フィールドで、「ユーザー定義 (User-defined)」を選択します。

JDBC プロバイダーとデータ・ソースを作成した後、データ・ソースの「カスタム・プロパティ」に移動して、以下のようにプロパティを追加および変更します。

- `serverName=<your_SQL_server_name>`
- `portNumber =<SQL_Server_Port_Number>`
- `databaseName=<your_database_name>`

以下のカスタム・プロパティを追加します。

名前: `webSphereDefaultIsolationLevel`

値: 1

データ型: 整数

Oracle 11 および 11 g

- ドライバー: Oracle JDBC ドライバー
- デフォルト・ポート: 1521
- ドライバー・クラス: `oracle.jdbc.OracleDriver`
- ドライバー URL:
`jdbc:oracle:thin:@<your_db_host>:<your_db_port>:<your_db_service_name>`

示されている形式を使ってドライバー URL を入力してください。IBM EMM アプリケーションでは、JDBC 接続に対する Oracle の RAC (Real Application Cluster) 形式の使用は許可されていません。

DB2

- ドライバー: DB2 Universal JDBC ドライバー・プロバイダー
- デフォルト・ポート: 50000
- ドライバー・クラス: `com.ibm.db2.jcc.DB2Driver`

- ドライバー URL: jdbc:db2://<your_db_host>:<your_db_port>/<your_db_name>

以下のカスタム・プロパティを追加します。

名前: webSphereDefaultIsolationLevel

値: 2

データ型: 整数

第 4 章 Marketing Operations のインストール

Marketing Operations のインストールを開始するには、IBM EMM インストーラーを実行する必要があります。IBM EMM インストーラーは、インストール・プロセスの間に、Marketing Operations インストーラーを開始します。IBM EMM インストーラーと製品インストーラーが同じ場所に保存されていることを確認してください。

IBM EMM スイート・インストーラーを実行するたびに、まず Marketing Platform システム・テーブルに関するデータベース接続情報を入力する必要があります。Marketing Operations インストーラーが開始するときに、Marketing Operations に関する必要な情報を入力する必要があります。

Marketing Operations をインストールした後で、製品の EAR ファイルを作成し、製品のレポート・パッケージをインストールすることができます。EAR ファイルの作成およびレポート・パッケージのインストールは、必須のアクションではありません。

重要: Marketing Operations をインストールする前に、Marketing Operations をインストールするコンピューター上の使用可能な一時スペースが、Marketing Operations インストーラーのサイズの 3 倍を超えていることを確認してください。

インストール・ファイル

インストール・ファイルは、製品のバージョンおよびその製品をインストールする必要のあるオペレーティング・システム (UNIX を除く) に従って命名されます。UNIX の場合、X Window System モード用とコンソール・モード用の異なるインストール・ファイルが存在します。

次の表に、製品のバージョンとオペレーティング・システムに従って命名されたインストール・ファイルの例を示しています。

表 8. インストール・ファイル

オペレーティング・システム	インストール・ファイル
Windows: GUI およびコンソール・モード	<i>Product_N.N.N.N_win64.exe</i> 。ここで、 <i>Product</i> はご使用の製品の名前、 <i>N.N.N.N</i> はその製品のバージョン番号であり、ファイルのインストール先オペレーティング・システムは Windows 64 ビット版でなければなりません。
UNIX: X Window System モード	<i>Product_N.N.N.N_solaris64.bin</i> 。ここで、 <i>Product</i> はご使用の製品の名前、 <i>N.N.N.N</i> はその製品のバージョン番号です。

表 8. インストール・ファイル (続き)

オペレーティング・システム	インストール・ファイル
UNIX: コンソール・モード	<i>Product_N.N.N.N.bin</i> 。ここで、 <i>Product</i> はご使用の製品の名前、 <i>N.N.N.N</i> はその製品のバージョン番号です。すべての UNIX オペレーティング・システムで、このファイルをインストールに使用できます。

GUI モードを使用した Marketing Operations のインストール

Windows の場合、GUI モードを使用して Marketing Operations をインストールします。UNIX の場合、X Window System モードを使用して Marketing Operations をインストールします。

重要: GUI モードを使用して Marketing Operations をインストールする前に、Marketing Operations をインストールするコンピュータの使用可能な一時スペースが、Marketing Operations インストーラーのサイズの 3 倍よりも大きいことを確認してください。

IBM EMM インストーラーと Marketing Operations インストーラーが、Marketing Operations をインストールするコンピュータの同じディレクトリーに存在することを確認してください。

GUI モード (Windows の場合) または X Window System モード (UNIX の場合) を使用して Marketing Operations をインストールするには、以下のようにします。

1. EMM インストーラーを保存したフォルダーに移動し、そのインストーラーをダブルクリックして開始します。
2. 最初の画面で「OK」をクリックして、「概要」ウィンドウを表示します。
3. インストーラーの指示に従って、「次へ」をクリックします。次の表に示された情報を使用して、EMM インストーラーの各ウィンドウで適切な操作を行います。

表 9. EMM インストーラーの GUI

ウィンドウ	説明
概要	これは IBM EMM スイートのインストーラーの最初のウィンドウです。このウィンドウから、Marketing Operations のインストール・ガイドおよびアップグレード・ガイドを開くことができます。 「次へ」をクリックして、次のウィンドウに移動します。

表 9. EMM インストーラーの GUI (続き)

ウィンドウ	説明
応答ファイルの宛先	製品の応答ファイルを生成する場合には、 「応答ファイルを生成する」チェック・ボックスをクリックします。応答ファイルには、製品のインストールに必要な情報が保管されています。応答ファイルは製品の自動インストールに使用できます。 「選択」をクリックして、応答ファイルを格納する場所を参照できます。 「次へ」をクリックして、次のウィンドウに移動します。
IBM EMM 製品	「インストール・セット」リストで、「カスタム」を選択してインストールする製品を選択します。 「インストール・セット」領域には、インストール・ファイルがコンピューターの同じディレクトリーにあるすべての製品が表示されます。 「説明」フィールドには、「インストール・セット」領域で選択した製品についての説明が表示されます。 「次へ」をクリックして、次のウィンドウに移動します。
インストール・ディレクトリー	「選択」をクリックして、IBM EMM をインストールするディレクトリーを参照します。 「次へ」をクリックして、次のウィンドウに移動します。
アプリケーション・サーバーの選択	インストールのために以下のいずれかのアプリケーション・サーバーを選択します。 • IBM WebSphere • Oracle WebLogic 「次へ」をクリックして、次のウィンドウに移動します。
Platform データベースのタイプ	適切な Marketing Platform データベースのタイプを選択します。 「次へ」をクリックして、次のウィンドウに移動します。

表 9. EMM インストーラーの GUI (続き)

ウィンドウ	説明
Platform データベース接続	データベースに関する以下の情報を入力します。 • データベース・ホスト名 • データベースのポート • データベース名またはシステム ID (SID) • データベース・ユーザー名 • データベースのパスワード 「次へ」をクリックして、次のウィンドウに移動します。 重要: IBM EMM 製品が分散環境にインストールされている場合、スイートに属するすべてのアプリケーションのナビゲーション URL では IP アドレスではなく、マシン名を使用する必要があります。
Platform データベース接続 (続き)	JDBC 接続を検討して確認します。 「次へ」をクリックして、次のウィンドウに移動します。
プリインストール・サマリー	インストール・プロセスで追加した値を検討して確認します。 「インストール」をクリックして、インストール・プロセスを開始します。 Marketing Platform インストーラーが開きます。Marketing Platform の以前のインスタンスが存在する場合は、そのインスタンスが現在のバージョンにアップグレードされます。Marketing Platform の以前のインスタンスが存在しない場合は、Marketing Platform がインストールされます。

- Marketing Platform インストーラーの指示に従って、Marketing Platform をインストールまたはアップグレードします。詳しくは、「*IBM EMM Marketing Platform インストール・ガイド*」を参照してください。
- 「インストール完了」ウィンドウで、「完了」をクリックします。Marketing Platform のインストールが完了し、Marketing Operations インストーラーが開きます。
- 次の表に示された情報を使用して、Marketing Operations インストーラーをナビゲートします。「Platform データベース接続」ウィンドウで、必要な情報をすべて入力し、「次へ」をクリックして Marketing Operations インストーラーを開始します。

表 10. IBM Marketing Operations インストーラーの GUI

ウィンドウ	説明
概要	これは Marketing Operations のインストーラーの最初のウィンドウです。このウィンドウから、Marketing Operations のインストール・ガイドおよびアップグレード・ガイドを開くことができます。 「次へ」をクリックして、次のウィンドウに移動します。
ソフトウェアのご使用条件	使用条件を注意深くお読みください。「印刷」を使用すると、この使用条件を印刷できます。使用条件を受け入れた後に、「次へ」をクリックします。
インストール・ディレクトリー	「選択」をクリックして、Marketing Operations をインストールするディレクトリーを参照します。 「次へ」をクリックして、次のウィンドウに移動します。
Marketing Operations コンポーネント	インストールするコンポーネントを選択します。 「次へ」をクリックして、次のウィンドウに移動します。
Marketing Operations データベースのセットアップ	Marketing Operations データベースをセットアップするために、以下のいずれかのオプションを選択します。 • 自動データベース・セットアップ • 手動データベース・セットアップ 「次へ」をクリックして、次のウィンドウに移動します。
Marketing Operations データベース・タイプ	適切なデータベース・タイプを選択します。 「次へ」をクリックして、次のウィンドウに移動します。

表 10. IBM Marketing Operations インストーラーの GUI (続き)

ウィンドウ	説明
Marketing Operations データベースの接続	Marketing Operations データベースに関する以下の詳細を入力します。 • データベース・ホスト名 • データベースのポート • データベース・システム ID (SID) • データベース・ユーザー名 • パスワード 重要: IBM EMM 製品が分散環境にインストールされている場合、スイートに属するすべてのアプリケーションのナビゲーション URL では IP アドレスではなく、マシン名を使用する必要があります。 「次へ」をクリックして、次のウィンドウに移動します。
Marketing Operations JDBC 接続	JDBC 接続を検討して確認します。 「次へ」をクリックして、次のウィンドウに移動します。
Marketing Operations 接続の設定	以下の接続設定を入力します。 • ネットワーク・ドメイン・ネーム • ホスト名 • ポート番号 必要であれば、「セキュア接続の使用」チェック・ボックスを選択します。 「次へ」をクリックして、次のウィンドウに移動します。
サポートされているロケール	このウィンドウには、Marketing Operations でサポートされるすべてのロケールが表示されます。
デフォルト・ロケール	インストール環境のためのデフォルト・ロケールを選択します。デフォルトで英語が選択されます。 「次へ」をクリックして、次のウィンドウに移動します。
プリインストール・サマリー	インストール・プロセスで追加した値を検討して確認します。 「インストール」をクリックして、インストール・プロセスを開始します。 Marketing Operations インストーラーが開きます。

表 10. IBM Marketing Operations インストーラーの GUI (続き)

ウィンドウ	説明
インストール完了	「完了」をクリックして Marketing Platform インストーラーを終了し、IBM EMM インストーラーに戻ります。

7. 「インストール完了」ウィンドウで「完了」をクリックし、Marketing Operations インストーラーを終了して EMM インストーラーに戻ります。
8. EMM インストーラーの指示に従って、Marketing Operations のインストールを終了します。次の表に示された情報を使用して、EMM インストーラーの各ウィンドウで適切な操作を行います。

表 11. EMM インストーラーの GUI

ウィンドウ	説明
デプロイメント EAR ファイル	エンタープライズ・アーカイブ (EAR) ファイルを作成して IBM EMM 製品をデプロイするかどうかを指定してください。 「次へ」をクリックして、次のウィンドウに移動します。
EAR ファイルのパッケージ化	「デプロイメント EAR ファイル」ウィンドウで「デプロイメントのために EAR ファイルを作成します」を選択した場合、このウィンドウが表示されます。 EAR ファイルにパッケージ化するアプリケーションを選択します。
EAR ファイルの詳細	EAR ファイルに関する以下の情報を入力します。 • エンタープライズ・アプリケーション ID • 表示名 • 説明 • EAR ファイル・パス
EAR ファイルの詳細 (続き)	「はい」または「いいえ」を選択して、追加の EAR ファイルを作成します。「はい」を選択した場合、新しい EAR ファイルに関する詳細を入力する必要があります。 「次へ」をクリックして、製品のインストールを完了します。
デプロイメント EAR ファイル	別の EAR ファイルを作成して IBM EMM 製品をデプロイするかどうかを指定してください。 「次へ」をクリックして、次のウィンドウに移動します。

表 11. EMM インストーラーの GUI (続き)

ウィンドウ	説明
インストール完了	このウィンドウには、インストール中に作成されたログ・ファイルの場所が示されます。 いずれかのインストール詳細を変更する場合は、「戻る」をクリックします。 「完了」をクリックして、IBM EMM インストーラーを閉じます。

コンソール・モードを使用した Marketing Operations のインストール

コマンド・ライン・ウィンドウを使用して Marketing Operations をインストールするには、コンソール・モードを使用します。コマンド・ライン・ウィンドウでは、各種オプションを選択して、インストールする製品の選択や、インストール用のホーム・ディレクトリーの選択などのタスクを実行できます。

Marketing Operations をインストールする前に、必ず以下の要素を構成しておいてください。

- アプリケーション・サーバー・プロファイル
- データベース・スキーマ。

コンソール・モードでインストーラー画面を正しく表示するには、UTF-8 文字エンコードをサポートするように端末ソフトウェアを構成してください。ANSI などその他の文字エンコードでは、テキストが正しくレンダリングされず、一部の情報が読み取れなくなります。

コマンド・ライン・ウィンドウを使用して以下のアクションを実行し、Marketing Operations をインストールします。

1. コマンド・ライン・プロンプト・ウィンドウを開いて、IBM EMM インストーラーと、Marketing Operations インストーラーを保存したディレクトリーにナビゲートします。
2. 以下のアクションのいずれか 1 つを実行します。
 - Windows の場合、次のコマンドを入力します。

```
ibm_emm_installer_full_name -i console
```

例: **IBM_EMM_Installer_9.1.0.0 -i console**

- Unix の場合、`ibm_emm_installer_full_name.sh` ファイルを呼び出します。

例: **IBM_EMM_Installer_9.1.0.0.sh**

3. コマンド・ライン・プロンプトに表示される指示に従ってください。コマンド・ライン・プロンプトでオプションを選択しなければならないときは、以下のガイドラインを使用します。
 - デフォルト・オプションはシンボル [X] で定義されます。
 - オプションを選択またはクリアするには、そのオプションに定義されている番号を入力して、Enter キーを押します。

例えば、インストール可能なコンポーネントが以下のリストに表示されていると想定します。

- 1 [X] Marketing Platform
- 2 [X] Campaign
- 3 Contact Optimization
- 4 Interaction History

Interaction History をインストールし、Campaign をインストールしない場合、コマンド **2,4** を入力します。

すると、選択したオプションが以下のリストのように表示されます。

- 1 [X] Marketing Platform
- 2 Campaign
- 3 Contact Optimization
- 4 [X] Interaction History

注: Marketing Platform のオプションは、既にインストール済みである場合を除いて、クリアしないでください。

4. IBM EMM インストーラーは、インストール・プロセスの間に、Marketing Operations インストーラーを起動します。Marketing Operations インストーラーのコマンド・ライン・プロンプト・ウィンドウの指示に従ってください
5. Marketing Operations インストーラーのコマンド・ライン・プロンプト・ウィンドウで `quit` を入力すると、ウィンドウはシャットダウンします。IBM EMM インストーラーのコマンド・ライン・プロンプト・ウィンドウの指示に従って、Marketing Operations のインストールを完了します。

注: インストールの間にエラーが発生した場合、ログ・ファイルが生成されます。このログ・ファイルを表示するには、インストーラーを終了する必要があります。

Marketing Operations のサイレント・インストール

Marketing Operations を複数回インストールするには、無人モード (サイレント・モード) を使用します。

Marketing Operations をインストールする前に、必ず以下の要素を構成しておいてください。

- アプリケーション・サーバー・プロファイル
- データベース・スキーマ

サイレント・モードを使用して Marketing Operations をインストールするときには、インストール中に必要な情報を取得するために応答ファイルが使用されます。製品をサイレント・インストールするには、応答ファイルを作成する必要があります。応答ファイルは、以下のいずれかの方法によって作成できます。

- 応答ファイル作成時のテンプレートとして、サンプル応答ファイルを使用します。サンプル応答ファイルは、ご使用の製品インストーラーの `ResponseFiles` 圧

縮アーカイブに含まれています。サンプル応答ファイルについて詳しくは、『サンプル応答ファイル』を参照してください。

- 製品をサイレント・モードでインストールするには、その前に、GUI (Windows) モード、X Window System (UNIX) モード、またはコンソール・モードで製品インストーラーを実行します。IBM EMM スイート・インストーラー用の応答ファイルが 1 つ、製品インストーラー用の応答ファイルが 1 つ以上作成されます。ファイルは、ユーザーの指定したディレクトリー内に作成されます。

重要: セキュリティー上の理由で、インストーラーはデータベース・パスワードを応答ファイルに保存しません。応答ファイルを作成するときは、各応答ファイルを編集してデータベース・パスワードを入力する必要があります。各応答ファイルを開いて PASSWORD を検索し、この応答ファイルの編集を行う必要のある場所を見つけます。

サイレント・モードで実行するとき、インストーラーは順番に以下のディレクトリーで応答ファイルを探します。

- IBM EMM インストーラーが保存されているディレクトリー内。
- 製品をインストールするユーザーのホーム・ディレクトリー内。

すべての応答ファイルを、必ず同じディレクトリーに入れてください。コマンド・ラインに引数を追加することによって、応答ファイルを読み取るためのパスを変更できます。例: **-DUNICA_REPLAY_READ_DIR="myDirPath" -f myDirPath/installer.properties**

Windows の場合は、次のコマンドを使用します。

- **IBM_EMM_installer_full_name -i silent**

以下に例を示します。

IBM_EMM_Installer_9.1.0.0_win.exe -i silent

UNIX または Linux の場合は、次のコマンドを使用します。

- **IBM_EMM_installer_full_name_opertating_system.bin -i silent**

以下に例を示します。

IBM_EMM_Installer_9.1.0_unix.bin -i silent

サンプル応答ファイル

Marketing Operations のサイレント・インストールをセットアップするため、応答ファイルを作成する必要があります。応答ファイルを作成する際には、サンプル応答ファイルを利用できます。サンプル応答ファイルは、インストーラーの ResponseFiles 圧縮アーカイブに含まれています。

次の表には、サンプル応答ファイルに関する情報が示されています。

表 12. サンプル応答ファイルの説明

サンプル応答ファイル	説明
installer.properties	IBM EMM マスター・インストーラーのサンプル応答ファイル。

表 12. サンプル応答ファイルの説明 (続き)

サンプル応答ファイル	説明
<code>installer_product initials and product version number.properties</code>	Marketing Operations マスター・インストーラーのサンプル応答ファイル。 例えば、 <code>installer_ucn.n.n.n.properties</code> (ここで、 <code>n.n.n.n</code> はバージョン番号) は、Campaign インストーラーの応答ファイルです。
<code>installer_report pack initials, product initials, and version number.properties</code>	レポート・パック・インストーラーのサンプル応答ファイル。 例えば、 <code>installer_urpc.properties</code> は、Campaign レポート・パック・インストーラーの応答ファイルです。

インストーラーの実行後に EAR ファイルを作成する

IBM EMM 製品をインストールした後に EAR ファイルを作成します。異なる製品の組み合わせを EAR ファイルに含めるために、これを行うことができます。

注: コマンド・ラインから、コンソール・モードでインストーラーを実行します。

IBM EMM 製品のインストール後に EAR ファイルを作成する場合には、以下の手順に従います。

1. コンソール・モードでインストーラーを初めて実行している場合は、インストール対象の製品ごとにインストーラーの `.properties` ファイルのバックアップ・コピーを作成してください。

それぞれの IBM 製品インストーラーは、`.properties` という拡張子の 1 つ以上の応答ファイルを作成します。これらのファイルは、インストーラーが格納されているのと同じディレクトリーに入っています。拡張子 `.properties` を持つすべてのファイルを必ずバックアップしてください。これには、すべての `installer_productversion.properties` ファイル、および IBM インストーラー自体のファイル (`installer.properties` という名前) も含まれます。

無人モードでインストーラーを実行する予定の場合は、元の `.properties` ファイルをバックアップする必要があります。これは、無人モードでインストーラーを実行するとこれらのファイルが消去されるためです。EAR ファイルを作成するには、インストーラーが初期インストールの際に `.properties` ファイルに書き込むための情報が必要です。

2. コマンド・ウィンドウを開き、ディレクトリーをインストーラーが含まれるディレクトリーに変更します。
3. インストーラーの実行可能ファイルに次のオプションを指定して実行します。

```
-DUNICA_GOTO_CREATEEARFILE=TRUE
```

UNIX タイプのシステムでは、`.sh` ファイルではなく `.bin` ファイルを実行します。

インストーラー・ウィザードが実行されます。

4. ウィザードの指示に従ってください。
5. 追加の EAR ファイルを作成する前に、初めてコンソール・モードで実行する前に作成したバックアップを使って (1 つまたは複数の) `.properties` ファイルを上書きしてください。

JAVA 環境変数

Java 環境変数は、システム全体の値を保管するグローバルなシステム変数です。IBM EMM 製品をインストールするには、マシンに Java Runtime Environment (JRE) バージョン 1.6 以上があることを確認してください。

注: `JAVA_HOME` 環境変数は IBM EMM 製品のインストールに必須ではありませんが、これが存在する場合は、Sun JRE バージョン 1.6 でなければなりません。

`JAVA_HOME` 環境変数が存在し、間違った JRE をポイントしている場合、IBM EMM インストーラーを実行する前に、`JAVA_HOME` 変数を設定解除する必要があります。`JAVA_HOME` 変数を設定解除するには、以下のようにします。

- Windows の場合: コマンド・ウィンドウで、次のように入力します。

```
set JAVA_HOME=leave empty and press return key
```

- UNIX タイプ・システム: 端末で次のコマンドを入力します。

```
export JAVA_HOME=leave empty and press return key
```

環境変数を設定解除すると、IBM EMM インストーラーは、インストーラーに組み込まれている JRE を使用します。

インストールが完了した後で、環境変数をリセットすることができます。

インストールのプロンプト・ウィンドウ

Marketing Operations のインストール中に、いくつかのプロンプト・ウィンドウが表示されます。必要な情報を入力した後、プロンプト・ウィンドウに入力結果が表示されて、続行する前にそれを確認することが要求されます。プロンプト・ウィンドウで、必要な場合に訂正を行うことができます。

参考のため、UNIX サーバーでコンソール・モードを使用してインストールするときに表示されるプロンプトの例を以下に示します。必ず、実際のインストール時に表示される指示に目を通してそれらに従ってください。

以下の例は、インストールを始める前に必要な情報を収集するのに役立ちますし、インストール時のリファレンスとしても使用できます。

表 13. インストール時のプロンプトと応答の例

プロンプト	応答
-bash-4.0\$	初期プロンプト。マスター・インストーラー・ファイルの名前と、インストールに使用する、データベース・セットアップ・ユーティリティー用の変数を指定してください。

表 13. インストール時のプロンプトと応答の例 (続き)

プロンプト	応答
ロケールを選択	番号を指定して、リストされる言語の 1 つを選択します。デフォルト・ロケールを使用するには、2- English を選択し、Enter キーを押します。
概要	以前のバージョンの製品がインストールされている場合は、アップグレードが開始されます。 同じバージョンの製品がインストールされている場合は、続行すると、すべてのテーブルおよびデータが除去されます。
応答ファイルの生成	番号を指定して、無人インストールで使用する応答ファイルを生成するかどうかを選択します。応答ファイルを生成する場合は、宛先パスを指定できます。
製品機能の選択	フィーチャーの番号付きリストが表示されます。チェック・マーク付き ([X]) のフィーチャーはインストールするものとして選択され、チェック・マークなし ([]) のフィーチャーは選択されません。選択を変更するには、選択状態からクリア状態に (あるいはその逆に) 切り替える番号をコンマ区切りリストを使用して指定してから、Enter を押します。 例えば、以下のようなフィーチャーのリストが表示されます。 1- [X] IBM Marketing Platform 2- [X] IBM Marketing Operations Marketing Platform のみをインストールするには、2 と入力してから Enter キーを押します。
マスター (Marketing Platform) インストール	
インストール・ディレクトリー	
アプリケーション・サーバーの選択	
Platform データベースのタイプ	Marketing Platform システム・テーブル・データベースに関する情報を指定してください。
Platform データベースのホスト名	
Platform データベースのポート	
Platform データベース名/システム ID (SID)	
Platform データベースのユーザー名	
Platform データベースのパスワード	
JDBC 接続	
JDBC ドライバー・クラスパス	
製品別 (Marketing Operations) インストール	

表 13. インストール時のプロンプトと応答の例 (続き)

プロンプト	応答
概要	インストールするものとして選択した各製品フィーチャーについて、個別の製品名の後に再インストールに関する警告が表示されます。
インストール・ディレクトリー	
Marketing Operations データベースのセットアップ	番号を指定して自動または手動を選択します。 - 自動セットアップでは、マスター・インストールでこの機能について指定したのと同じ情報が使用されます。 - 手動セットアップでは、フィーチャー別の違いに対応するため、それぞれのデータベースおよび JDBC 特性について別々にプロンプトが出されます。
Marketing Operations サーバー/ホスト	
Marketing Operations サーバー・ポート	
Marketing Operations ドメイン・ネーム (Marketing Operations Domain Name)	インストールするすべてのフィーチャーについて、同じ企業ドメインをすべて小文字で指定します。
サポートされているロケール	番号を指定して、言語を選択します。また、コンマ区切りリストを指定して、複数のロケールを選択することもできます。
デフォルト・ロケール	番号を指定して、言語を選択します。
デプロイメント EAR ファイル	番号を指定して、エンタープライズ・アーカイブ (EAR) ファイルを作成するかどうかを選択します。

第 5 章 配置の前に IBM Marketing Operations を構成する

Web アプリケーションを配置する前に、構成タスクを完了します。

Marketing Operations の手動登録

インストール中に Marketing Operations インストーラーが Marketing Platform システム・テーブル・データベースに接続できない場合、インストールは失敗します。この場合、Marketing Operations を手動で登録する必要があります。

インストーラーがシステム・テーブルへの接続に失敗した場合でも、インストール処理は続行します。この場合、製品情報を Marketing Platform システム・テーブルに手動でインポートする必要があります。

この手順で言及される configTool ユーティリティーは、Marketing Platform インストールの tools/bin ディレクトリーにあります。configTool ユーティリティーの使用に関する詳しい説明については、65 ページの『第 11 章 configTool』を参照してください。

以下の手順を実行して、Marketing Operations を手動で登録します。

1. 以下の操作を実行して、環境変数を設定します。
 - Windows の場合、NAVIGATION_DIR という名前の環境変数を Marketing Operations conf ディレクトリーに設定します。
 - UNIX の場合、\$NAVIGATION_DIR という名前の環境変数を Marketing Operations conf ディレクトリーに設定します。
2. 以下のコマンド例をガイドラインとして使用して、configTool ユーティリティーを実行します。
 - Windows の場合、以下のコマンドを使用します。

```
configTool.bat -v -i -p "Affinium" -f "%NAVIGATION_DIR%\plan_registration.xml"
```

```
configTool.bat -v -i -p "Affinium|suite|uiNavigation|mainMenu" -f "%NAVIGATION_DIR%\plan_navigation_operations.xml"
```

```
configTool.bat -v -i -p "Affinium|suite|uiNavigation|mainMenu" -f "%NAVIGATION_DIR%\plan_navigation_financials.xml"
```

Marketing Operations に財務モジュールがインストールされている場合、次のコマンドを実行します。

```
configTool.bat -v -i -p "Affinium|suite|uiNavigation|mainMenu|Analytics" -f "%NAVIGATION_DIR%\plan_navigation_analytics.xml"
```

```
configTool.bat -v -i -p "Affinium|suite|uiNavigation|settingsMenu" -f "%NAVIGATION_DIR%\plan_navigation_settings.xml"
```

```
configTool.bat -v -i -p "Affinium|suite|uiNavigation|alerts" -f  
"%NAVIGATION_DIR%\plan_alerts_registration.xml"
```

- UNIX の場合、./configTool.sh ファイルを使用して、以下のコマンドで configTool ユーティリティを実行します。

```
./configTool.bat -v -i -p "Affinium" -f "$NAVIGATION_DIR/  
plan_registration.xml"
```

```
./configTool.bat -v -i -p "Affinium|suite|uiNavigation|mainMenu" -f  
"$NAVIGATION_DIR/plan_navigation_operations.xml"
```

```
./configTool.bat -v -i -p "Affinium|suite|uiNavigation|mainMenu" -f  
"$NAVIGATION_DIR/plan_navigation_financials.xml"
```

Marketing Operations に財務モジュールがインストールされている場合、次のコマンドを実行します。

```
./configTool.bat -v -i -p  
"Affinium|suite|uiNavigation|mainMenu|Analytics" -f  
"$NAVIGATION_DIR/plan_navigation_analytics.xml"
```

```
./configTool.bat -v -i -p "Affinium|suite|uiNavigation|settingsMenu"  
-f "$NAVIGATION_DIR/plan_navigation_settings.xml"
```

```
./configTool.bat -v -i -p "Affinium|suite|uiNavigation|alerts" -f  
"$NAVIGATION_DIR/plan_alerts_registration.xml"
```

注: 手動登録の場合、Marketing Platform が Marketing Operations と同じコンピューターにインストールされていなければ、Marketing Platform ツールをコンピューターにインストールするか、または Marketing Operations xml 構成ファイルをコンピューターにコピーする必要があります。

Marketing Operations システム・テーブルの作成およびデータ設定

Marketing Operations のインストール中に自動データベース・セットアップが失敗した場合、Marketing Operations システム・テーブルを手動で作成してデータ設定する必要があります。Marketing Operations システム・テーブルを生成するには、umodbsetup ユーティリティを実行する必要があります。

umodbsetup ユーティリティは、以下のいずれかのタスクを実行します。

- Marketing Operations データベースで必要なシステム・テーブルを作成し、必要なデフォルト・データをシステム・テーブルに追加します。
- データベースを作成してデータを追加するためのスクリプトをファイルに出力します (このファイルは、後で、ユーザーまたはデータベース管理者がユーザーのデータベース・クライアントで実行できます)。

環境変数の構成

umodbsetup ユーティリティを実行する前に、以下の手順を実行して、環境変数を適切に構成します。

1. `<IBM_EMM_Home>%<MarketingOperations_Home>%tools%bin` ディレクトリーで、`setenv` ファイルを見つけ、テキスト・エディターで開きます。
2. `JAVA_HOME` 変数が正しい Java インストール・ディレクトリーを示しており、`DBDRIVER_CLASSPATH` 変数の最初の項目が JDBC ドライバーであることを確認します。この環境変数の設定について詳しくは、30 ページの『JAVA 環境変数』を参照してください。
3. ファイルを保存して閉じます。
4. `<IBM_EMM_Home>%<MarketingOperations_Home>%tools%bin` ディレクトリーで、`umo_jdbc.properties` ファイルを見つけて開きます。
5. 以下のパラメーターの値を設定します。
 - `umo_driver.classname`
 - `umo_data_source.url`
 - `umo_data_source.login`
 - `umo_data_source.password`
6. ファイルを保存して閉じます。

データベース・セットアップ・ユーティリティの実行

コマンド・プロンプトまたは UNIX シェルで、
`<IBM_EMM_Home>%<MarketingOperations_Home>%tools%bin` ディレクトリーに移動します。`umodbsetup` ユーティリティを実行し、自身の状況に必要なパラメーターに適切な入力データを指定してください。

例えば、次のコマンドは、(アップグレードではなく) フルデータベース・インストールを実行し、ロケールを `en_US` に設定して、ロギング・レベルを `high` に設定します。

```
./umodbsetup.sh -t full -L en_US -l high
```

ユーティリティについて指定できるすべての変数の説明は以下のとおりです。

表 14. `umodbsetup.sh` ユーティリティの変数

変数	説明
<code>-h</code>	ユーティリティのヘルプを表示します。
<code>-l</code>	<code>umodbsetup</code> ユーティリティのアクションによる出力を <code>umo-tools.log</code> ファイルに記録します。このファイルは <code><IBM_EMM_Home>%<MarketingOperations_Home>%tools%logs</code> ディレクトリーにあります。この変数はロギング・レベルを指定します。 ロギング・レベルは、 <code>high</code> 、 <code>medium</code> 、または <code>low</code> に設定できます。
<code>-L</code>	インストールのデフォルト・ロケールを設定します。例えば、ドイツ語版のインストールでは <code>-L de_DE</code> を使用してください。 ロケールについて有効な入力値としては、 <code>de_DE</code> 、 <code>en_GB</code> 、 <code>en_US</code> 、 <code>es_ES</code> 、 <code>fr_FR</code> 、 <code>it_IT</code> 、 <code>ja_JP</code> 、 <code>ko_KR</code> 、 <code>pt_BR</code> 、 <code>ru_RU</code> 、 <code>zh_CN</code> があります。 注: ロケール情報は大小文字を区別するので、本書に記載されているとおりに使用する必要があります。

表 14. umodbsetup.sh ユーティリティーの変数 (続き)

変数	説明
-m	スクリプトを <IBM_EMM_Home>%<MarketingOperations_Home>%tools ディレクトリー内のファイルに出力します。このファイルは後で手動で実行することができます。このオプションは、データベース・クライアント・アプリケーションからスクリプトを実行する必要がある場合に使用してください。この変数を使用すると、スクリプトが umodbsetup ツールによって実行されなくなります。
-t	データベース・インストールのタイプ。有効な値は full と upgrade です。例えば、-t full とします。
-v	冗長。
-b	アップグレードの場合のみ。アップグレードしようとしているデータベースの基本バージョンを識別します。 デフォルトで、ユーティリティーは、アップグレードしようとしているデータベースのバージョンを検出します。ただし、以前にデータベースをアップグレードしようとしたときに何らかの形で失敗していた場合、アップグレードが失敗してもバージョンが更新されていることがあります。問題を修正して再びユーティリティーを実行するときには、この変数を -f 変数と共に使用して、正しい基本バージョンを指定してください。 例: -f -b 9.0.0.0
-f	アップグレードの場合のみ。データベースで検出される基本バージョンをオーバーライドして、-b 変数で指定された基本バージョンがユーティリティーで使用されるようにします。-b 変数の説明を参照してください。
-E	このオプションは、ファイルで使用可能な既存のパスワードを暗号化するために使用します。このオプションは、-t や -P などの他のオプションと共に使用できます。 例: umodbsetup.bat/sh -E
-P	このオプションは、既存のパスワードを変更して、それを暗号化するために使用します。ユーザーがこのオプションを選択した場合、新しいパスワードを入力するためのプロンプトがツールによって出されます。新しいパスワードは、暗号化された後に umodbsetup.properties ファイルに保管されます。このオプションでは、新しいパスワードのためのプロンプトが出されるため、個別に使用してください。 例: umodbsetup.bat/sh -P

データベース・スクリプトの手動実行

-m 変数を使用してスクリプトを出力し、データベース・クライアント・アプリケーションから実行できるようにしてある場合は、ここで、そのスクリプトを実行してください。

システム・テーブルを作成してデータを追加する前に plan.war ファイルを配置しないでください。

環境変数の設定

Windows マシンにインストールされている WebLogic Web アプリケーション・サーバーに Marketing Operations を配置する予定の場合は、環境変数を指定します。

WebLogic がインストールされているマシンで、以下の値を Path System 環境変数に追加します。

- Sun JDK がインストールされている bin ディレクトリーへの絶対パス。
- WebLogic がインストールされている server¥bin ディレクトリーへの絶対パス。

第 6 章 IBM Marketing Operationsの配置

Web アプリケーションを配置するには、EAR ファイルに Marketing Operations を含めるか、または、WAR ファイルを配置します。

Marketing Operations を配置するには、以下のガイドラインを使用します。

- インストーラーを実行した後に EAR ファイルを作成して他の IBM 製品をその EAR ファイルに含めた場合は、この章に記載されているガイドラインに従うほか、EAR ファイルに含めた製品の個々のインストール・ガイドに記載されているすべての配置ガイドラインに従う必要があります。
- 「管理」コンソールの使用方法などに関する詳細は、Web アプリケーション・サーバーの資料を参照してください。

Websphere での Marketing Operations の配置

WebSphere Application Server (WAS) に、WAR ファイルまたは EAR ファイルから Marketing Operations アプリケーションを配置できます。

Websphere に Marketing Operations を配置する前に以下の点を考慮してください。

- ご使用のバージョンの WebSphere が、「*Recommended Software Environments and Minimum System Requirements*」の資料で説明されている要件 (必要なフィックスパックやアップグレードを含む) を満たしていることを検証してください。
- WebSphere Integrated Solutions コンソールを使用して、WebSphere Application Server を構成します。以下のステップでは、個々の制御を設定するためのガイドラインを示します。

注: WebSphere Application Server のバージョンによって、ユーザー・インターフェース制御が表示される順序が異なり、別のラベルが使用されていることもあります。

以下の手順を実行して Marketing Operations の配置のための環境をセットアップします。

1. カスタム・プロパティを定義します。「アプリケーション・サーバー」 > 「<servers>」 > 「Web コンテナ」 > 「カスタム・プロパティ」フォームで、「新規」をクリックして以下の値を入力します。
 - 名前: com.ibm.ws.webcontainer.invokefilterscompatibility
 - 値: true
2. JDBC プロバイダーを作成します。「リソース」 > 「JDBC」 > 「JDBC プロバイダー」フォームで、「新規」をクリックします。以下のフィールドも含めて、「新規 JDBC プロバイダーの作成」ウィザードを完了します。
 - a. 「実装タイプ」で「接続プール」データ・ソースを選択します。
 - b. サーバー上のデータベース・ドライバ JAR ファイルのネイティブ・ライブラリー・パスを指定します。例えば、db2jcc4.jar/ojdbc6.jar/sqljdbc4.jar。

3. データ・ソースを作成します。「リソース」 > 「JDBC」 > 「データ・ソース」フォームで、「新規」をクリックします。以下の操作を実行して、データ・ソースの作成ウィザードを完了します。
 - a. データ・ソース名を指定します。
 - b. 「JNDI 名」に `plands` と入力します。
 - c. ステップ 2 で作成した JDBC プロバイダーを選択します。
 - d. データベース名およびサーバー名を指定します。
 - e. 「マッピング構成」別名で **WSLogin** を選択します。
4. データ・ソースのカスタム・プロパティを定義します。「JDBC プロバイダー」 > 「<database provider>」 > 「データ・ソース」 > 「カスタム・プロパティ」フォームで、「新規」をクリックして、以下の 2 つのプロパティを追加します。
 - 名前: `user`
 - 値: `<user_name>`
 - 名前: `password`
 - 値: `<password>`
 -

Marketing Operations システム・テーブルが DB2 内にある場合は、`resultSetHoldability` プロパティを見つけ、その値を 1 に設定します。このプロパティが存在しない場合は、追加してください。

5. JVM を構成します。「アプリケーション・サーバー」 > 「<server>」 > 「プロセス定義」 > 「Java 仮想マシン」フォームで、「クラスパス」を見つけ、以下の項目をスペースで区切って「汎用 JVM 引数」として追加します。
 - `-Dplan.home=<IBM_EMM_Home>%<MarketingOperations_Home>`

ここで、`<IBM_EMM_Home>` は最上位の IBM ディレクトリーへのパスであり、`<MarketingOperations_Home>` は Marketing Operations がインストールされているディレクトリーへのパスです。通常、このパスは `IBM_EMM/MarketingOperations` です。

 - `-Dclient.encoding.override=UTF-8`

WAR または EAR ファイルの配置

新規エンタープライズ・アプリケーションを配置する場合、WebSphere Integrated Solutions Console に一連のフォームが表示されます。以下のステップでは、それらのフォームで個々の制御を設定するためのガイドラインを示します。WebSphere のバージョンによって、制御が表示される順序が異なる可能性があります。また、別のラベルが使用されている場合もあります。

以下の手順を実行して、WAR または EAR ファイルを配置します。

1. 「アプリケーション」 > 「新規アプリケーション」 > 「新規エンタープライズ・アプリケーション (New Enterprise Application)」を選択します。
2. 初期フォームで、「リモート」ファイル・システムを選択してから、「参照」で `plan.war` ファイルまたは EAR ファイルを指定します。

3. 次の「アプリケーション・インストールの準備」ウィンドウで、以下のようになります。
 - 「詳細」を選択します。
 - 「デフォルト・バインディングの生成」を選択します。
 - 「既存バインディングをオーバーライドする」を選択します。
4. 「インストール・オプションの選択」ウィンドウで以下の操作を完了します。
 - 「JavaServer Pages ファイルのプリコンパイル」を選択します。
 - 「アプリケーション名」に plan と入力します。
 - 「Web および EJB モジュールのクラス再ロード設定をオーバーライドする」を選択します。
 - 「再ロード間隔 (秒)」では、4 などの整数を入力します。
5. 「サーバーにモジュールをマップ」ウィンドウで、「モジュール」を選択します。EAR を配置した場合は、すべての WAR ファイルを選択してください。
6. 「JSP をコンパイルするためのオプションを指定」ウィンドウで、「Web モジュール」を選択します。EAR を配置した場合は、すべての WAR ファイルを選択してください。
7. 「JDK ソース・レベル」を 16 に設定します。
8. 「Web モジュールの JSP 再ロード・オプション」フォームで、「JSP: クラスの再ロードを有効にする」を選択し、「JSP: 再ロード間隔 (秒)」に 5 と入力します。
9. 「共有ライブラリーをマップ」ウィンドウで、「アプリケーション」および「モジュール」を選択します。
10. 「共有ライブラリーの関係をマップ」ウィンドウで、「アプリケーション」および「モジュール」を選択します。
11. 「リソース参照をリソースにマップ」ウィンドウでモジュールを選択し、「ターゲット・リソース JNDI 名」に plands と入力します。
12. 「Web モジュールのコンテキスト・ルートをマップ」ウィンドウで、「コンテキスト・ルート」に /plan と入力します。
13. 設定を確認して保存します。

クラス・ローダー・ポリシーの定義

クラス・ローダー・ポリシーは、WAS でアプリケーションを構成する方法を定義します。Marketing Operations を配置する前に WAS のデフォルトの設定をいくつか変更する必要があります。

以下の手順を完了して、クラス・ローダー・ポリシーを定義します。

1. 「エンタープライズ・アプリケーション」 > 「plan」 > 「クラス・ローダー」で、「Web および EJB モジュールのクラス再ロード設定をオーバーライドする」を選択します。
2. 「クラス・ローダー」順序では、「最初にローカル・クラス・ローダーをロードしたクラス (親は最後)」を選択します。
3. 「WAR クラス・ローダーのポリシー (WAR class loader policy)」で、「アプリケーション用の単一のクラス・ローダー (Single class loader for application)」を選択します。

4. 「適用」および「設定の保存」をクリックします。

Cookie の設定の定義

「Websphere エンタープライズ・アプリケーション」の「セッション管理」オプションを使用し、Cookie の設定を定義してセットする必要があります。

以下の手順を完了して、Cookie の設定を定義します。

1. 「エンタープライズ・アプリケーション」 > 「*plan*」 > 「セッション管理」へ移動します。
2. 「セッション管理のオーバーライド」を選択します。
3. 「Cookie を使用可能にする」を選択します。
4. 「適用」をクリックして、「エンタープライズ・アプリケーション」 > 「*plan*」 > 「セッション管理」 > 「Cookie」に移動します。
5. Marketing Operations の「Cookie 名」を JSESSIONID から UMOSESSIONID に変更します。
6. 「適用」および「設定の保存」をクリックします。

EAR モジュール設定の定義

EAR ファイルを配置した場合は、EAR ファイルに含まれている個々の WAR ファイルの設定を定義する必要があります。

以下の手順を完了して、EAR ファイル・モジュールの設定を定義します。

1. 「エンタープライズ・アプリケーション」に移動して、EAR ファイルを選択します。
2. 「モジュールの管理」フォームで、WAR ファイルの 1 つ (例えば、MktOps.war) を選択します。
3. 「エンタープライズ・アプリケーション」 > 「EAR」 > 「モジュールの管理」 > 「WAR」フォームで以下の手順を実行します。
 - a. 「開始ウェイト」を 10000 に設定します。
 - b. 「クラス・ローダー順序」では、「最初にアプリケーション・クラス・ローダーをロードしたクラス」を選択します。
4. 「エンタープライズ・アプリケーション」 > 「EAR」 > 「モジュールの管理」 > 「WAR」 > 「セッション管理」で、「Cookie を使用可能にする」を選択します。
5. 「エンタープライズ・アプリケーション」 > 「EAR」 > 「モジュールの管理」 > 「WAR」 > 「セッション管理」 > 「Cookie」で以下の手順を実行します。
 - a. 「Cookie 名」を CMPJSESSIONID に設定します。
 - b. 「Cookie 最大存続期間」では、「現行のブラウザー・セッション」を選択します。
6. 「エンタープライズ・アプリケーション」 > 「EAR」 > 「モジュールの管理」 > 「WAR」 > 「セッション管理」で以下の情報を入力します。
 - a. 「オーバーフローの許可」を選択します。
 - b. 「メモリー内の最大セッション・カウント」に 1000 と入力します。

- c. 「セッション・タイムアウト」で「タイムアウトの設定」を選択し、30 と入力します。
7. 他の WAR ファイル (unica.war や plan.war など) のそれぞれについても同じ設定を定義します。

注: Campaign.war ファイルが EAR ファイル内にも存在し、Marketing Operations と Campaign とを統合する計画の場合、Campaign.war ファイルに対して同じ設定を定義してください。

WebLogic での Marketing Operations の配置

WebLogic での Marketing Operations の配置については、以下のガイドラインを使用してください。

- IBM EMM 製品は、WebLogic によって使用される JVM をカスタマイズします。JVM 関連のエラーが発生した場合に、IBM EMM 製品専用の WebLogic インスタンスを作成することができます。
- 同一の WebLogic ドメインに複数の Marketing Operations アプリケーションをインストールしないでください。
- 始動スクリプト (startWebLogic.cmd) で JAVA_VENDOR 変数を調べて、使用する WebLogic ドメイン用に選択された Software Development Kit (SDK) が Sun SDK であることを確認します。その変数は、JAVA_VENDOR=Sun に設定されている必要があります。それが JAVA_VENDOR=BEA に設定されている場合、JRockit が選択されています。JRockit はサポートされていません。選択されている SDK を変更する方法については、WebLogic の文書を参照してください。

WebLogic へ Marketing Operations を配置するには以下の手順を実行します。

1. ご使用のオペレーティング・システムが AIX® である場合は、Marketing Operations の WAR ファイルを解凍し、xercesImpl.jar ファイルを WEB_INF/lib ディレクトリーから削除して、WAR ファイルを再作成します。インストーラーによって製品が EAR ファイルにまとめられている場合は、まず、そのファイルを解凍して WAR ファイルを取得してから、EAR ファイルを再作成する必要があります。
2. IIS プラグインを使用するように WebLogic を構成する場合は、WebLogic の資料を見直して、他にも要件があるかどうかを確認します。
3. WebLogic ドメイン・ディレクトリーの下の bin ディレクトリーで、setDomainEnv スクリプトを見つけ、テキスト・エディターで開きます。スクロールして JAVA_OPTIONS プロパティーを表示し、次の項目を追加します。項目を区切るにはスペースを使用します。
 - -Dplan.home=<IBM_EMM_Home>%*<MarketingOperations_Home>ここで、<IBM_EMM_Home> は最上位の IBM ディレクトリーへのパスであり、<MarketingOperations_Home> は Marketing Operations がインストールされているディレクトリーへのパスです。通常、このディレクトリーは IBM_EMM/MarketingOperations です。
 - -Dfile.encoding=UTF-8
4. ファイルを保存して閉じます。
5. WebLogic を再始動します。

6. Marketing Operations を Web アプリケーション・モジュールとして配置します。 plan.war を選択します。
7. 配置した Web アプリケーションを開始します。

第 7 章 配置後の IBM Marketing Operations の構成

Marketing Operations アプリケーションを配置して開始した後に、インストール済み環境にログインしてそれを確認します。システム・ユーザーおよびテスト・ユーザーの構成や、E メールおよびマークアップのセットアップなど、いくつかの基本的な構成ステップがあります。

注: その他のシステム・セットアップ・タスクは、「*Marketing Operations* 管理者ガイド」に記載されています。

さらに、IBM EMM レポート作成機能を使用する予定の場合は、51 ページの『第 8 章 レポートのインストール』で説明されているタスクを実行する必要があります。

インストールの検証

Marketing Platform をインストールした後に、インストールが正常に行われたことを検証します。IBM EMM にログインした後に、「設定」ページの「構成」リストで、IBM EMM 製品の名前が表示される場合、インストールは成功しました。

以下の手順を実行して、Marketing Platform インストールを検証します。

1. Internet Explorer を使って IBM EMM URL にアクセスします。

インストール時にドメインを入力した場合、URL は次のようになります。この場合、*host* は Marketing Platform がインストールされているマシン、*domain.com* はホスト・マシンが常駐しているドメイン、*port* は Web アプリケーション・サーバーが listen するポート番号です。

`http://host.domain.com:port/unica`

2. デフォルトの管理者ログイン情報を使用してログインします。管理者ログインのユーザー名は、asm_admin です。

初回ログインの場合、ユーザー・パスワードのデフォルト値は password です。パスワードを変更するよう求められます。既存のパスワードを入力することもできますが、新しいパスワードを選択することをお勧めします。Marketing Platform インストールの検証時、このユーザーのパスワードを変更する必要があります。

デフォルトのホーム・ページは Dashboard であり、ダッシュボードがセットアップされるまでブランク・ページになります。「404 page not found」というメッセージが表示される場合は、Dashboard の WAR ファイルが適切に配置されていません。Dashboard の WAR ファイルの配置方法に関する説明については、「*Marketing Platform* インストール・ガイド」を参照してください。

3. 「設定」>「構成」を選択し、左側のリストに Marketing Operations が表示されていることを確認します。その後、「Marketing Operations」セクションを展開して、「umoConfiguration」カテゴリーがリストに表示されていることを確認します。

4. オプション: ダッシュボードを構成するまで、「構成設定」ページを「ホーム」ページにします。これにより、ログインするたびにブランク・ページが表示されることはなくなります。

asm_admin ユーザーに Marketing Operations へのアクセス権限を付与する

デフォルトの管理ユーザー (asm_admin) は、自動的に、Marketing Operations 構成プロパティにアクセスできます。ただし、Marketing Operations アプリケーションへのアクセス権限を持つデフォルト・ユーザーは、構成しない限り存在しません。

以下の手順を実行して、asm_admin ユーザーに、Marketing Operations へのアクセス権限を付与します。

1. グループを作成します。例えば、「設定」>「ユーザー・グループ」>「新しいグループ」と選択して、**Default-MarketOps-Group** をセットアップします。
2. **PlanAdminRole** 役割および **PlanUserRole** 役割をグループに割り当てます。
3. **asm_admin** ユーザーをグループに割り当てます。
4. アプリケーション・サーバーを再始動します。
5. **asm_admin** として再度ログインします。
6. 「操作」>「計画」を選択することによって、Marketing Operations フィーチャーにアクセスできることを確認してください。

マークアップ・オプションの構成

Marketing Operations は、添付ファイルに関するコメントを入力するためのマークアップ・ツールを備えています。Marketing Operations ユーザーがレビューの承認を送信すると、承認者は、他のユーザーが参照可能な電子ファイルに自分のコメントを直接入力できるようになります。

Marketing Operations には、以下のマークアップ・ツールが備わっています。

- ネイティブ Marketing Operations マークアップ: ネイティブ・マークアップ・オプションは、PDF、HTML、JPG、PNG、GIF、および BMP の各形式のファイルに適用できる各種のマークアップ機能を提供します。URL がわかれば、ユーザーは Web サイト全体にマークアップを付けることができます。その後、コメントを Marketing Operations に保存できます。ネイティブ・マークアップはデフォルト・オプションです。Acrobat をクライアント・マシンにインストールする必要はありません。
- Adobe Acrobat マークアップ: このマークアップ・ツールの場合、Adobe Acrobat を各クライアント・マシンにインストールする必要があります。ユーザーは、Acrobat のすべてのコメント機能を適用することができ、編集した PDF を Marketing Operations に保存することができます。

マークアップ・オプションはグローバル設定です。異なるユーザーのグループに対して異なるマークアップ・オプションを有効にすることはできません。

表 15. Adobe Acrobat の互換性

オペレーティング・システム	Adobe Acrobat のバージョン	サポートされるブラウザ
Windows 7	Adobe Acrobat バージョン 10	Internet Explorer 9
Windows 8	Adobe Acrobat バージョン 10	Internet Explorer 10
Mac Os 10.8	Adobe Acrobat バージョン 10 および 11	Safari

注: Windows 7 や Windows 8 での Adobe XI はサポートされていません。

Adobe マークアップ・オプションの構成

Marketing Operations を配置するときに、デフォルトで、システムはネイティブ・マークアップ・オプションを使用するように構成されます。代わりに Adobe マークアップ・オプションを使用する場合は、以下の手順を実行します。

- 「設定」 > 「構成」 > 「Marketing Operations」 > 「umoConfiguration」 > 「マークアップ」を選択します。その後、以下の値を指定してマークアップ・プロパティを構成します。
- **markupServerType** を SOAP に設定します。
- **markupServerURL** を Marketing Operations ホスト・サーバーの URL (完全修飾ホスト名、および Web アプリケーション・サーバーが listen するポートを含む) に設定します。次のパス形式を使用してください (<server> および <port> の値は該当のものに置き換えてください)。

`http://<server>:<port>/plan/services/collabService?wsdl`

- **useCustomMarkup** を True に設定します。

構成設定により、すべてのユーザーについて Adobe マークアップが有効になります。

クライアント・マシンでの Adobe のインストールと構成

ユーザーが Adobe マークアップを有効に利用できるようにするため、IBM Marketing Operations へのアクセスに使用される各クライアント・マシンに Adobe Acrobat をインストールする必要があります。

Microsoft Windows プラットフォームにインストールするたびに、Marketing Operations インストール・ディレクトリーの下
`<MarketingOperations_Home>%tools` にある、カスタマイズされた
`UMO_Markup_Collaboration.js` ファイルをクライアント・マシンにコピーする必要があります。このファイルを Adobe Acrobat がインストールされているディレクトリーの JavaScripts サブディレクトリーにコピーします。以下に例を示します。

```
C:\Program files\Adobe\Acrobat
6.0\Acrobat\Javascripts\UMO_Markup_Collaboration.js
```

sdksOAPCollabSample.js ファイルがこのディレクトリー内にある場合は削除してください。このファイルは UMO_Markup_Collaboration.js ファイルに置き換えられます。

次のことに注意してください。

- ユーザーが他の承認者のコメントを参照できない場合、UMO_Markup_Collaboration.js ファイルが欠落しているか、または正しくない可能性があります。
- このファイルをコピーする前に Acrobat を実行した場合は、マークアップ機能を使用するためにコンピューターを再始動する必要があります。

また、Internet Explorer ブラウザーを使用して IBM Marketing Operations にアクセスするユーザーは、PDF がブラウザーに表示されるように Internet Explorer の設定を指定する必要があります。

E メール設定の構成

Marketing Operations のインストール時に SMTP サーバーを指定して、インストール・プロセス中に E メール設定を構成できるようにします。

以下の手順を実行して、E メール設定を構成します。

1. 「設定」>「構成」>「Marketing Operations」>「umoConfiguration」>「E メール」を選択します。
2. 「設定の編集」をクリックします。
3. notifyEMailMonitorJavaMailHost プロパティの値を組織の SMTP サーバーのマシン名または IP アドレスに設定します。
4. notifyDefaultSenderEmailAddress プロパティの有効な E メール・アドレスを指定します。システムは、E メール通知を送信するための有効な E メール・アドレスがない場合には、このアドレスを使用して、E メールを送信します。
5. 変更を保存します。

Campaign との統合の構成

Marketing Operations は、必要に応じて IBM Campaign と統合されます。Marketing Operations と Campaign が統合されていると、Marketing Operations のマーケティング・リソース管理機能を使用して、キャンペーンを作成、計画、承認することができます。

Campaign 統合が有効になっている場合は、オファー統合を有効にして、オファーのライフサイクル管理タスクを Marketing Operations で実行することもできます。

Campaign との統合を有効にするには、Marketing Operations にログインし、「設定」>「構成」ページで以下のプロパティを設定します。

- 「IBM EMM」>「Platform」:
 - IBM Marketing Operations - Campaign 統合 (MO_UC_integration を有効にする必要があります)

- IBM Marketing Operations - オファー統合 (オプション。Campaign 統合が有効な場合)
- 「IBM EMM」 > 「Campaign」 > 「partitions」 > 「partition[n)」 > 「サーバー」 > 「内部」 :
 - MO_UC_integration (以下の 3 つのオプション設定のいずれかを有効にする予定の場合は、このオプションを「はい」に設定します)
 - MO_UC_BottomUpTargetCells
 - Legacy_campaigns
 - IBM Marketing Operations - オファー統合
- 「IBM EMM」 > 「Marketing Operations」 > 「umoConfiguration」 > 「campaignIntegration」 :
 - defaultCampaignPartition
 - webServiceTimeoutInMilliseconds

詳しくは、「Marketing Operations および Campaign 統合ガイド」を参照してください。

統合システム用の DB2 データベースの構成

Marketing Operations で統合システムと統合オファーを使用する予定の場合は、デッドロック状態が生じないように DB2 データベースの時間パラメーターを構成します。

DB2 データベースを構成するために次のステップを実行します。

1. DB2 管理ユーティリティー (get db cfg) を使用して、**LOCKTIMEOUT** および **DLCHKTIME** パラメーターの設定を確認します。
2. 以下のように、ロックのタイムアウト期間を 10 秒に設定します。

```
update db cfg using LOCKTIMEOUT 10
```

3. 以下のように、デッドロックのチェック時間を 15,000 ミリ秒に設定します。

```
update db cfg using DLCHKTIME 15000
```

デッドロックのチェック時間の設定により、複数のユーザーがデータベース表に同時にアクセスしたときにデッドロック状態が発生しないようにします。

第 8 章 レポートのインストール

レポート作成機能のために、Marketing Operations は、別個のビジネス・インテリジェンス・アプリケーションである IBM Cognos と統合します。

レポート作成は、以下のコンポーネントに依存します。

- 「*Recommended Software Environments and Minimum System Requirements*」で指定された要件を満たす IBM Cognos インストール済み環境。
- IBM システムを IBM Cognos インストール済み環境と統合する一連の IBM Enterprise Marketing Management (EMM) コンポーネント。
- IBM Cognos Report Authoring を使用して作成された、Marketing Operations アプリケーションのレポートの例。

Marketing Platform は、レポート作成機能の統合の IBM サイドを提供します。レポート作成機能のインストールを完了するには、IBM Cognos システムで以下のレポート・パッケージ・インストーラーをすべて実行します。

- IBM
- IBM Marketing Platform
- IBM Marketing Operations

IBM Marketing Operations のレポート作成をインストールして設定する方法、および個別のコンポーネントとそれらが相互に対話する方法について詳しくは、「*IBM EMM Reports インストールおよび構成ガイド*」を参照してください。

レポートの次のステップ

認証が設定されている構成のテストが終了した後は、レポート作成が正しく機能していて、サンプル・レポートはデフォルトの状態になっています。

- 「ユーザーごとに認証」モードを使用するようにシステムを構成した場合は、該当する IBM ユーザーが IBM アプリケーションからレポートを実行できるようにしてください。これを実行する最も簡単な方法は、デフォルトの ReportsUser 役割を適切なユーザー・グループまたはユーザーに割り当てる方法です。
- Framework Manager データ・モデルおよび Report Authoring レポートに関する一般情報については、「*IBM Marketing Platform 管理者ガイド*」内の『レポートの構成』という章を参照してください。Marketing Operations レポートの構成およびカスタマイズについては、「*IBM Marketing Operations 管理者ガイド*」の『レポートの使用』の章を参照してください。
- ダッシュボード内で Cognos ダッシュボード・レポートを使用するには、「*IBM Marketing Platform 管理者ガイド*」の『ダッシュボードの作成と管理』の章を参照してください。

第 9 章 概要

IBM Marketing Operations をクラスターにインストールするには、第 2 章から第 7 章までの説明に従いながら、この章で示す情報をそれらの手順に補足します。

Marketing Operations をクラスターにインストールする場合、インストールを構成する方法はいろいろあります。ただし、基本的なプロセスがあります。

1. 1 つのシステムでインストーラーを実行します。通常は、管理サーバー（またはご使用のアプリケーション・サーバー・タイプにおいて同等のもの）です。
2. すべての Marketing Operations インストールのアップロード・ファイルを保管するためのファイル・ディレクトリーを作成し、共有します。
3. EAR ファイルを作成し、それをクラスター内の各マシンに配置します。
4. 各システムが同じ Marketing Platform システム・テーブル、および同じ Marketing Operations システム・テーブルを共有するように構成します。
5. 各システムが共有ファイル・ディレクトリーを使用するように構成します。
6. クラスター内のどのマシンが通知を送信するかを決定します。次に、その他のすべてのマシンで通知プロセスを抑制します。
7. クラスター内のすべてのサーバーについて UMOSESSIONID Cookie を有効にします。
8. テンプレートおよびオファー・フォルダーの分散キャッシュ用の plan_ehcache.xml を構成します。

WebSphere のガイドライン

WebSphere のクラスターに Marketing Operations をインストールする場合は、Marketing Operations を WebSphere にインストールするための手順に加えて、追加の手順も実行してください。

データ・ソースの準備

データ・ソースの章では、Marketing Operations 用のデータベースを作成し、その JDBC データ・ソースをアプリケーション・サーバーに構成する手順を示します。WebSphere 上のクラスターに対してこれらのタスクを実行するときは、以下に示す追加の指示に注意してください。

- Marketing Operations データベースは、クラスター内のすべてのマシンにとってアクセス可能なマシン上に存在しなければなりません、クラスター内のマシン上である必要はありません。
- JDBC プロバイダーを構成するときに、スコープとしてクラスターを指定します。

製品のインストール

インストーラー実行の手順に従う際は、Marketing Operations クラスター内のすべてのマシンにとってアクセス可能なマシン上に、Marketing Platform および Marketing Operations を 1 回だけインストールするようにします。

それぞれのクラスター・メンバーにソフトウェアをインストールする必要はありません。その代わりに、ソフトウェアを 1 回だけインストールし、EAR を作成して、その EAR ファイルを各クラスター・メンバーに配置します。

追加の配置前手順

Marketing Operations を配置する前に、配置前の構成に関する章で記載したタスクに加えて、以下のタスクを実行します。

- Marketing Operations のインストール先の最上位ディレクトリーを共有します。例えば、Marketing Operations を `C:\MktOpsCluster\IBM_EMM\MarketingOperations` にインストールするとします。この場合は、MktOpsCluster ディレクトリー全体を共有します。
- Marketing Operations のアップロード・ファイルを格納するためのフォルダーを管理サーバー上に作成し、共有します。このフォルダーは `Shared_UMO_Artifacts` フォルダーと呼ばれます。すべてのクラスター・メンバーは、このフォルダーの完全な制御権（読み取り、書き込み、変更、および削除）を持っていなければなりません。必要に応じて、このフォルダーをローカル・ファイル・システム階層の IBM ホーム・ディレクトリーの下に置くことができます。

追加の配置手順

配置の章に記載されている説明のほかに、以下に示す追加事項に注意してください。

1. サーバーへのモジュールのマップ

WebSphere の「インストール・オプションの選択」ウィザードでオプションを設定するときに、モジュールをサーバーにマップする際のクラスターおよび Web サーバーを選択します。

2. 汎用 JVM プロパティーに関する追加の手順

クラスター内の各マシンで、汎用 JVM プロパティーを構成します。

`plan.home` およびその他のプロパティーで指定するパスは、共有インストール・ディレクトリーを指していなければなりません。

クラスターに対して、以下の追加パラメーターを設定します。

- `-DPLAN_CONFIG_GUID=Plan`
- `-Dplan.log.config=%umoMachine%\SharedUnicaHome%\MarketingOperations\conf\plan_log4j_client.xml`
- `-Dplan.local.log.dir=local_log_dir` (ここで `local_log_dir` は、Marketing Operations がログを作成する、物理マシン上の書き込み可能フォルダーです)

- 通知を送信するべきでないマシンでは、「通知の抑制」パラメーターを次のように設定します。

```
-Dplan.suppressNotifications=true
```

通知を送信するノードを除くすべてのノードで、このプロパティを設定します。

- ノードの CONF ディレクトリーに定義されたデフォルト・ファイルの代わりに、別の plan_ehcache.xml ファイルを使用するには、そのノードについて -plan_ehcache パラメーターを設定して、ファイルの場所を指定します。

セッション管理 Cookie の構成

クラスター内のサーバーによって使用されるセッション管理 Cookie の名前を定義する必要があります。セッション管理 Cookie を構成するには、以下のようになります。

1. WebSphere コンソールで、クラスター内のサーバーに関するプロパティにアクセスします。Web コンテナ設定に移動し、セッション管理構成を開きます。
2. Cookie を有効にし、UMOSESSIONID を Cookie 名として指定します。
3. 設定を保存し、クラスター内のすべてのサーバーについてこの手順を繰り返します。

追加の配置後手順

ロード・バランシングのプラグインを使用する場合は、以下の構成手順を実行する必要があります。

- IBM Marketing Operations がクラスター環境で効率的に動作するためには、ユーザーはそのセッションの間ずっと 1 つのノード上にとどまらなければなりません。このセッション管理およびロード・バランシングのオプションは、セッション・アフィニティーと呼ばれます。セッション・アフィニティーを使用するようにインストール済み環境を構成する方法については、ご使用のアプリケーション・サーバーの資料を参照してください。

注: この構成オプションを使用するシステムでノードに障害が発生した場合、そのノード上のすべてのユーザー・セッションも障害が発生します。ユーザー認証は Marketing Operations 内の単一ノードにのみ適用されるため、ロード・バランサーは、使用可能な別のノードにユーザーを切り替えることはしません (また、切り替えるべきではありません)。ユーザーに再ログインするよう求めるプロンプトが表示されます。場合によっては、予期しないエラーや、対応するデータ損失が発生する可能性があります。

- Marketing Operations にログインします。「設定」>「構成」を選択し、以下の URL パラメーターを構成して、Marketing Operations サーバーへのすべての参照でプロキシ・ホストおよびポートが使用されるようにします。
 - Marketing Operations | navigation | serverURL
 - Marketing Operations | umoConfiguration | markup | markupServerURL
 - Marketing Operations | umoConfiguration | notifications | notifyPlanBaseURL

WebLogic のガイドライン

WebLogic のクラスターに Marketing Operations をインストールする計画の場合、追加の手順を実行する必要があります。

インストールの準備

作業を開始する前に、クラスターの WebLogic ドメインを作成する必要があります。このステップに関するヘルプについては、WebLogic の資料を参照してください。

データ・ソースの準備

データ・ソースの章では、Marketing Operations 用のデータベースを作成し、その JDBC データ・ソースをアプリケーション・サーバーに構成する手順を示します。クラスターに対してこれらのタスクを実行するときは、以下に示す追加の指示に注意してください。

- クラスター内のすべてのマシンで正しい JDBC ドライバーを使用できるように Web アプリケーション・サーバーを構成する必要があります。
- Marketing Platform システム・テーブル (UnicaPlatformDS) のデータ・ソースを管理サーバーとクラスター・メンバーの両方で作成してください。
- Marketing Operations システム・テーブル (plands) のデータ・ソースを作成したら、それを管理サーバーではなく、クラスターに配置します。「**クラスター内のすべてのサーバー (All servers in the cluster)**」を選択してください。

製品のインストール

インストーラーを実行するときには、必ず、クラスターの管理サーバーとして指定されているマシンに Marketing Platform および Marketing Operations を 1 回インストールしてください。それぞれのクラスター・メンバーにソフトウェアをインストールする必要はありません。その代わりに、管理サーバーでインストールを 1 回実行し、EAR を作成して、その EAR ファイルをそれぞれのクラスター・メンバーに配置します。

配置前手順

Marketing Operations を配置する前に、配置前の構成に関する章で記載したタスクに加えて、以下のタスクを実行します。

- Marketing Operations のインストール先の最上位ディレクトリーを共有します。例えば、Marketing Operations が `C:\MktOpsCluster\IBM_EMM\MarketingOperations` というディレクトリーにインストールされているとします。この場合は、`MktOpsCluster` ディレクトリー全体を共有します。
- Marketing Operations のアップロード・ファイルを格納するためのフォルダーを管理サーバー上に作成し、共有します。このフォルダーは `Shared_UMO_Artifacts` フォルダーと呼ばれます。すべてのクラスター・メンバーは、このフォルダーの完全な制御権（読み取り、書き込み、変更、および削除）を持っていなければなりません。必要に応じて、このフォルダーをローカル・ファイル・システム階層の IBM ホーム・ディレクトリーの下に置くことができます。

WebLogic でのアプリケーションの配置

配置の章に記載されている説明のほかに、以下に示す追加事項に注意してください。

1. ソース・アクセシビリティ・オプションの設定

EAR を管理サーバーに配置する場合は、「ソース・アクセシビリティ (Source accessibility)」オプションを「配置対象で定義されているデフォルトを使用する (Use the defaults defined by the deployment's targets)」に設定します。

2. JAVA_OPTIONS の設定に関する追加の指示

setenv ファイルの **JAVA_OPTIONS** プロパティをクラスター内の各マシンで構成するのを忘れないでください。

plan.home プロパティで指定するパスは、共有インストール・ディレクトリーをポイントしていなければなりません。

クラスターについて設定する追加パラメーターとして、以下の 2 つがあります。

- `-DPLAN_CONFIG_GUID=Plan`
- 通知を送信すべきでないマシンでは、「通知の抑制」パラメーターを次のように設定します。

```
-Dplan.suppressNotifications=true
```

通知を送信するように指定されたマシンでは、`suppressNotifications` プロパティが `false` に設定されていることを検証してください。他のすべてのマシンでは、このプロパティを `true` に設定します。

3. 代替 ehcache ファイルの定義

CONF ディレクトリーで定義されている `plan_ehcache.xml` ファイルは、クラスター内のすべてのノードで使用されます。ノード上のこのデフォルトのファイルをオーバーライドするには、そのノードで `startWeblogic.cmd` (Windows の場合) または `startWeblogic.sh` (UNIX の場合) を編集して、**JAVA_OPTIONS** プロパティを構成します。`-plan_ehcache` パラメーターを追加して、別の `plan_ehcache.xml` ファイルの場所を指定してください。

セッション管理 Cookie の構成

クラスター内のサーバーで使用されるセッション管理 Cookie の名前を定義するには、`plan.war` ファイルを編集します。このファイルは、インストーラーによって作成され、アプリケーション・サーバーに配置されます。

以下の手順を実行して、セッション管理 Cookie を構成します。

1. コマンド・プロンプトを開き、Java のバージョンが Marketing Operations で使用される JRE と同じであることを確認します。`java -version` と入力してください。
2. `plan.war` を一時フォルダーにコピーして、元の `plan.war` ファイルの名前を変更します。

3. 新しい一時アーカイブ plan.war の中身を解凍します。jar -xvf plan.war と入力してください。
4. 解凍済みの plan.war を削除します。rm plan.war と入力してください。
5. WEB-INF ディレクトリーに移動します。cd WEB-INF と入力してください。
6. web.xml ファイルを編集して、このタグを追加し、Cookie 名をオーバーライドします。

```
<init-param>
  <param-name>CookieName</param-name>
  <param-value>UMOSESSIONID</param-value>
</init-param>
```
7. plan.war を再び圧縮します。cd .. と入力してから、jar -cvf * plan.war と入力してください。
8. 更新した plan.war をコピーしてサーバー上の元の場所に戻します。
9. 更新した plan.war を配置します。

配置後の手順

ロード・バランシングのプラグインを使用する場合は、以下の構成手順を実行します。

- IBM Marketing Operations がクラスター環境で効率的に動作するためには、ユーザーはそのセッションの間ずっと 1 つのノード上にとどまらなければなりません。セッション管理およびロード・バランシングのためのこのオプションは、スティッキー・セッションまたはスティッキー・ロード・バランシングと呼ばれます。このオプションを使用するようにインストールを構成する方法について詳しくは、ご使用のアプリケーション・サーバーの資料を参照してください。

注: この構成オプションを使用するシステムでノードに障害が発生した場合、そのノード上のすべてのユーザー・セッションも障害が発生します。ユーザー認証は Marketing Operations 内の単一ノードにのみ適用されるため、ロード・バランサーは、使用可能な別のノードにユーザーを切り替える必要があります。ユーザーに再ログインするよう求めるプロンプトが表示されます。場合によっては、予期しないエラーや、対応するデータ損失が発生する可能性があります。

- Marketing Operations にログインし、「設定」>「構成」を選択します。Marketing Operations サーバーに対するすべての参照でプロキシ・ホストおよびプロキシ・ポートが使用されるようにするため、以下の URL パラメーターを構成します。
 - Marketing Operations | navigation | serverURL
 - Marketing Operations | umoConfiguration | markup | markupServerURL
 - Marketing Operations | umoConfiguration | notifications | notifyPlanBaseURL

共有フォルダー・プロパティの構成

Shared_UMO_Artifacts フォルダーは共有フォルダーであり、Marketing Operations を配置する前に作成されます。Marketing Operations を正常に配置した後に、すべてのアップロード・ファイルが、Shared_UMO_Artifacts フォルダー内のサブフォルダーを指していることを確認してください。

以下の手順を実行して、共有フォルダーのプロパティを設定します。

1. ログインして、「設定」>「構成」を選択します。
2. 「Marketing Operations」>「umoConfiguration」>「templates」を選択します。
3. 「設定の編集」をクリックしてから、templatesDir プロパティの値を更新して、Shared_UMO_Artifacts フォルダーのサブフォルダーをポイントするようにします。
4. 変更を保存します。
5. 「Marketing Operations」>「umoConfiguration」>「attachmentFolders」を選択します。
6. 「設定の編集」をクリックしてから、このカテゴリのすべてのプロパティの値を更新して、Shared_UMO_Artifacts フォルダーのサブフォルダーをポイントするようにします。
7. 変更を保存します。

ehcache の構成

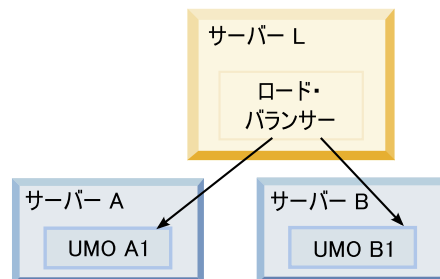
ehcache は、キャッシュ、Java EE、および単純なコンテナ用のオープン・ソース Java 分散キャッシュです。クラスター内のすべてのノードで同じ plan_ehcache.xml ファイルを使用することも、ノードごとに異なる plan_ehcache.xml ファイルを設定することもできます。クラスターでのインストールの場合、テンプレートまたは提供フォルダーに変更を加えたときにコンピューターを再始動する必要がないように plan_ehcache.xml ファイルを編集できます。

重要: インストール済み環境が以前のバージョンからアップグレードされたものである場合、plan_ehcache.xml ファイルの一部または全部のセクションが存在しないことがあります。その場合は、以下のセクションで示されているように、ファイルを追加および編集してください。

以下のいずれかの手順を使用して、ehcache ファイルを構成します。

リモート・メソッド呼び出し (RMI) による ehcache の構成

通常、以下のトポグラフィーの Marketing Operations システムでは RMI を使用します。



クラスター化トポグラフィー 1:
RMI による ehcache の構成

<IBM_EMM_Home>%<MarketingOperations_Home>%conf ディレクトリーに移動して、テキスト・エディターで plan_ehcache.xml ファイルを開きます。その後、以下の編集作業を行います。

- ファイルの以下のセクションをアンコメントします。

太字の項目 (machineA、machineB、およびポート) は、ご使用の環境に合わせてカスタマイズする必要があります。完全修飾ホスト名を使用して、クラスター内のすべてのマシンを縦棒 (|) で区切って指定してください。

```
<!--
<cacheManagerPeerProviderFactory
class="net.sf.ehcache.distribution.RMICacheManagerPeerProviderFactory"
properties="peerDiscovery=manual,
rmiUrls=//<b>machineA</b>:40000/planApplicationCache|//<b>machineB</b>:
40000/planApplicationCache"/>

<cacheManagerPeerListenerFactory
class="net.sf.ehcache.distribution.RMICacheManagerPeerListenerFactory"
properties="port=40000, socketTimeoutMillis=20000"/>
-->
```

- ファイルの以下のセクションをアンコメントします。

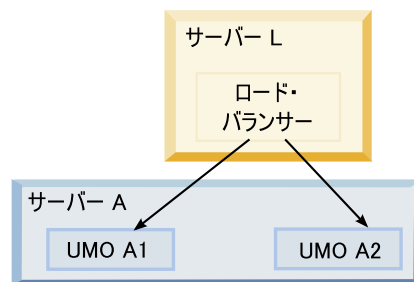
```
<!--
<cacheEventListenerFactory
class="net.sf.ehcache.distribution.RMICacheReplicatorFactory"
properties="replicateAsynchronously=true, replicatePuts=true,
replicateUpdates=true, replicateUpdatesViaCopy=true,
replicateRemovals=true"/>
<cacheEventListenerFactory
class="com.unicacorp.uap.common.cache.PlanCacheEventListenerFactory
"net.sf.ehcache.distribution.RMIBootstrapCacheLoaderFactory" />
-->
```

- 次の行がファイルに含まれている場合は削除します。

```
<bootstrapCacheLoaderFactory class=net.sf.ehcache.distribution.
RMIBootstrapCacheLoaderFactory"/>
```

マルチキャストによる ehcache の構成

通常、以下のトポグラフィーの Marketing Operations システムではマルチキャストを使用します。



クラスター化トポグラフィー 2:
マルチキャストによる ehcache の構成

<IBM_EMM_Home>%<MarketingOperations_Home>%conf ディレクトリーに移動し、テキスト・エディターで plan_ehcache.xml ファイルを開きます。その後、以下の編集作業を行います。

- ファイルの以下のセクションをアンコメントします。

太字の項目 (multicastGroupAddress および multicastGroupPort) は、ご使用の環境のマルチキャスト・グループおよびポートに合わせてカスタマイズする必要があります。


```

<!--<cacheManagerPeerProviderFactory
class="net.sf.ehcache.distribution.RMICacheManagerPeerProviderFactory"
properties="peerDiscovery=automatic, multicastGroupAddress=230.0.0.1,
multicastGroupPort=4446, timeToLive=32"/>

<cacheManagerPeerListenerFactory
class="net.sf.ehcache.distribution.RMICacheManagerPeerListenerFactory"/>
-->

```

- ファイルの以下のセクションをアンコメントします。

```

<!--
<cacheEventListenerFactory
class="net.sf.ehcache.distribution.RMICacheReplicatorFactory"
properties="replicateAsynchronously=true, replicatePuts=true,
replicateUpdates=true, replicateUpdatesViaCopy=true,
replicateRemovals=true"/>
<cacheEventListenerFactory
class="com.unicacorp.uap.common.cache.PlanCacheEventListenerFactory" />
-->

```

- 次の行がファイルに含まれている場合は削除します。

```

<bootstrapCacheLoaderFactory
class="net.sf.ehcache.distribution.RMIBootstrapCacheLoaderFactory"/>

```

第 10 章 Marketing Operations のアンインストール

Marketing Operations アンインストーラーを実行して、Marketing Operations をアンインストールします。Marketing Operations アンインストーラーを実行すると、インストール・プロセスの間に作成されたファイルが削除されます。例えば、構成ファイル、インストーラーの登録情報、およびユーザー・データなどのファイルがコンピュータから削除されます。

IBM EMM 製品をインストールする際、アンインストーラーが `Uninstall_Product` ディレクトリーに組み込まれます。`Product` は、IBM 製品の名前です。Windows の場合、「コントロール パネル」の「プログラムの追加と削除」リストへのエントリーの追加も行われます。

アンインストーラーを実行する代わりにインストール・ディレクトリーからファイルを手動で削除すると、後で IBM 製品を同じ場所に再インストールする場合にインストールが不完全になってしまう可能性があります。製品をアンインストールしても、そのデータベースは削除されません。アンインストーラーは、インストール時に作成されたデフォルトのファイルのみを削除します。インストール後に作成または生成されたファイルはいずれも削除されません。

注: UNIX の場合、Marketing Operations をインストールしたものと同一ユーザー・アカウントがアンインストーラーを実行する必要があります。

Marketing Operations をアンインストールするには、以下のタスクを実行します。

1. Marketing Operations Web アプリケーションを配置した場合、WebSphere または WebLogic から Web アプリケーションを配置解除します。
2. WebSphere または WebLogic をシャットダウンします。
3. Marketing Operations に関連するプロセスを停止します。
4. 製品インストール・ディレクトリーに `ddl` ディレクトリーが既存である場合、その `ddl` ディレクトリーに用意されているスクリプトを実行して、システム・テーブル・データベースからテーブルを削除します。
5. 以下のいずれかのステップを実行して Marketing Operations をアンインストールします。
 - `Uninstall_Product` ディレクトリー内にある Marketing Operations アンインストーラーをダブルクリックします。アンインストーラーは、Marketing Operations をインストールする際に使用したモードで実行します。
 - コンソール・モードを使用して Marketing Operations をアンインストールする場合は、コマンド・ライン・ウィンドウで、アンインストーラーが存在するディレクトリーにナビゲートして、次のコマンドを実行します。

`Uninstall_Product -i console`

- サイレント・モードを使用して Marketing Operations をアンインストールする場合は、コマンド・ライン・ウィンドウで、アンインストーラーが存在するディレクトリーにナビゲートして、次のコマンドを実行します。

Uninstall_Product -i silent

サイレント・モードを使用して Marketing Operations をアンインストールする場合、アンインストール・プロセスでは、ユーザーとの対話用のダイアログが表示されません。

注: オプションを指定せずに Marketing Operations をアンインストールすると、Marketing Operations アンインストーラーは Marketing Operations のインストール時に使用されたモードで実行されます。

第 11 章 configTool

「構成」ページのプロパティと値は、システム・テーブルに保管されます。configTool ユーティリティーを使用して、構成設定をシステム・テーブルにインポートしたり、システム・テーブルからエクスポートしたりできます。

configTool をいつ使用するか

configTool は、次のような目的で使用できます。

- Campaign に備わっているパーティションおよびデータ・ソースのテンプレートをインポートする。その後、構成ページを使って、その変更および複製を行うことができます。
- 製品インストーラーがプロパティをデータベースに自動的に追加できない場合に IBM EMM 製品を登録する (その構成プロパティをインポートする)。
- バックアップ用の構成設定の XML バージョンをエクスポートし、IBM EMM の別のインストールにインポートする。
- 「**カテゴリの削除 (Delete Category)**」リンクを持たないカテゴリを削除する。これを行うには、configTool を使用して構成をエクスポートし、カテゴリを作成する XML を手動で削除し、configTool を使用して、編集された XML をインポートします。

重要: このユーティリティーは、Marketing Platform システム・テーブル・データベース (構成プロパティとその値が含まれている) の `usm_configuration` テーブルと `usm_configuration_values` テーブルを変更します。最良の結果を得るために、それらのテーブルのバックアップ・コピーを作成するか、configTool を使って既存の構成をエクスポートし、生成されるファイルをバックアップしてください。そうすることで、configTool を使ったインポートに失敗した場合に構成を復元することができます。

構文

```
configTool -d -p "elementPath" [-o]

configTool -i -p "parent ElementPath" -f importFile [-o]

configTool -x -p "elementPath" -f exportFile

configTool -vp -p "elementPath" -f importFile [-d]

configTool -r productName -f registrationFile [-o] configTool -u
productName
```

コマンド

-d -p "elementPath" [o]

構成プロパティ階層内のパスを指定して、構成プロパティとその設定を削除します。

エレメント・パスには、カテゴリおよびプロパティの内部名が使用されている必要があります。それらを得るには、「構成」ページの目的のカテゴリまたはプロパティを選択して、右のペインにある括弧内に示されているパスを確認します。| 文字を使って構成プロパティ階層のパスを区切り、パスを二重引用符で囲みます。

次のことに注意してください。

- このコマンドで削除できるのは、アプリケーション内のカテゴリおよびプロパティのみで、アプリケーション全体は削除できません。アプリケーション全体を登録解除するには、**-u** コマンドを使用します。
- 「構成」ページに「**カテゴリの削除**」リンクがないカテゴリを削除するには、**-o** オプションを使用します。

-d を指定した **-vp** コマンドを使用する場合、configTool はユーザーが指定するパスにあるすべての下位ノードを削除します (これらのノードが、ユーザーの指定する XML ファイルに含まれていない場合)。

-i -p "parentElementPath" -f importFile [o]

指定された XML ファイルから構成プロパティとその設定をインポートします。

インポートするには、カテゴリのインポート先の親要素へのパスを指定します。configTool ユーティリティは、パス内で指定するカテゴリの下にプロパティをインポートします。

カテゴリは最上位の下などのレベルにでも追加することができますが、最上位カテゴリと同じレベルにカテゴリを追加することはできません。

親エレメント・パスには、カテゴリおよびプロパティの内部名が使用されている必要があります。これらの内部名は、「構成」ページに移動して、必要なカテゴリまたはプロパティを選択し、右側のペインの括弧内に表示されるパスを調べることによって得ることができます。| 文字を使って構成プロパティ階層のパスを区切り、パスを二重引用符で囲みます。

tools/bin ディレクトリーからの相対的なインポート・ファイル場所を指定するか、ディレクトリーの絶対パスを指定することができます。相対パスを指定した場合、またはパスを指定しない場合、configTool は tools/bin ディレクトリーから相対的な場所にあるファイルを最初に探します。

デフォルトでこのコマンドは既存のカテゴリを上書きしませんが、**-o** オプションを使用して上書きを強制することができます。

-x -p "elementPath" -f exportFile

指定された名前の XML ファイルに構成プロパティとその設定をエクスポートします。

すべての構成プロパティをエクスポートすることも、構成プロパティ階層内のパスを指定することによって特定のカテゴリにエクスポートを制限することもできます。

要素パスにはカテゴリおよびプロパティの内部名を使用する必要があります。これは、「構成」ページに移動し、必要なカテゴリまたはプロパティを選択して、右側のペインで括弧付きで表示されるパスを見ると分かります。| 文字を使って構成プロパティ階層のパスを区切り、パスを二重引用符で囲みます。

現行ディレクトリーからの相対的なエクスポート・ファイル場所を指定するか、ディレクトリーの絶対パスを指定することができます。ファイル指定に区切り記号 (UNIX の場合は /、Windows の場合は \ または ¥) が含まれていない場合、configTool はファイルを Marketing Platform インストール済み環境の tools/bin ディレクトリーの下に作成します。xml 拡張子を付けない場合、configTool によってそれが追加されます。

-vp -p "elementPath" -f importFile [-d]

このコマンドは、主に手動アップグレードにおける構成プロパティのインポートに使用されます。新しい構成プロパティが含まれるフィックスパックを適用し、その後にアップグレードする場合、手動アップグレード・プロセスの一部として構成ファイルをインポートすると、フィックスパックを適用したときに設定された値がオーバーライドされる場合があります。-vp コマンドを使用すると、インポートを行っても、それ以前に設定された構成値はオーバーライドされません。

重要: configTool ユーティリティを -vp オプションを指定して使用したら、変更が適用されるように、Marketing Platform がデプロイされている Web アプリケーション・サーバーを再始動する必要があります。

-d を指定した -vp コマンドを使用する場合、configTool はユーザーが指定するパスにあるすべての下位ノードを削除します (これらのノードが、ユーザーの指定する XML ファイルに含まれていない場合)。

-r productName -f registrationFile

アプリケーションを登録します。tools/bin ディレクトリーに相対する登録ファイルの場所を指定することも、絶対パスを指定することもできます。デフォルトでこのコマンドは既存の構成を上書きしませんが、-o オプションを使用して上書きを強制することができます。productName パラメーターは、上記にリストされているうちのいずれかでなければなりません。

次のことに注意してください。

- -r コマンドを使用する際、登録ファイルには XML 内の最初のタグとして <application> を指定する必要があります。

Marketing Platform データベースに構成プロパティを挿入するために使用できる他のファイルが、製品と一緒に提供されることがあります。それらのファイルについては、-i コマンドを使用します。最初のタグとして <application> タグがあるファイルだけを -r コマンドとともに使用できます。

- Marketing Platform の登録ファイルの名前は Manager_config.xml で、最初のタグは <Suite> です。新規インストールでこのファイルを登録するには、populateDb ユーティリティを使用するか、「IBM Marketing Platform インストール・ガイド」にある説明に従って Marketing Platform インストーラーを再実行します。

- 最初のインストールの後、Marketing Platform 以外の製品を再登録するには、configTool を -r コマンドおよび -o を指定して実行して、既存のプロパティを上書きします。

configTool ユーティリティーは、製品の登録または登録解除を行うコマンドのパラメーターとして製品名を使用します。IBM EMM 8.5.0 リリースでは、多くの製品名が変更されました。しかし、configTool によって認識される名前は変更されていません。configTool で使用できる有効な製品名を、現在の製品名とともに以下にリストします。

表 16. configTool 登録および登録解除で使用する製品名

製品名	configTool で使用する名前
Marketing Platform	Manager
Campaign	Campaign
Distributed Marketing	Collaborate
eMessage	emessage
Interact	interact
Contact Optimization	Optimize
Marketing Operations	Plan
CustomerInsight	Insight
Digital Analytics for On Premises	NetInsight
Opportunity Detection	Detect
Leads	Leads
Interaction History	InteractionHistory
Attribution Modeler	AttributionModeler
IBM SPSS Modeler Advantage Enterprise Marketing Management Edition	SPSS
Digital Analytics	Coremetrics

-u productName

productName によって指定されたアプリケーションを登録解除します。製品カテゴリにパスを含める必要はありません。製品名は必須で、それのみで十分です。この処理は、製品のすべてのプロパティおよび構成設定を削除します。

オプション

-o

-i または -r と共に使用すると、既存のカテゴリまたは製品登録（ノード）を上書きします。

-d と共に使用すると、「構成」ページに「**カテゴリの削除**」リンクがないカテゴリ（ノード）を削除することができます。

例

- Marketing Platform インストール済み環境の下の conf ディレクトリーの Product_config.xml という名前のファイルから構成設定をインポートします。


```
configTool -i -p "Affinium" -f Product_config.xml
```

- 既存の Campaign パーティション (データ・ソース・エントリーが完備されている) をエクスポートし、それを partitionTemplate.xml という名前のファイルに保存し、Marketing Platform インストールのデフォルトの tools/bin ディレクトリーに保管します。

```
configTool -x -p "Affinium|Campaign|partitions|partition1" -f  
partitionTemplate.xml
```

- Marketing Platform インストール済み環境の下のデフォルトの tools/bin ディレクトリーにある app_config.xml という名前のファイルを使用して、productName という名前のアプリケーションを手動で登録して、このアプリケーションの既存の登録を上書きするように強制します。

```
configTool -r product Name -f app_config.xml -o
```

- productName という名前のアプリケーションを登録解除します。

```
configTool -u productName
```

第 12 章 IBM Marketing Operations 構成プロパティ

このセクションでは、「設定」>「構成」ページの IBM Marketing Operations 構成プロパティについて説明します。

Marketing Operations

このカテゴリのプロパティは、IBM Marketing Operations インストール済み環境のデフォルトとサポート対象のロケールを指定します。

supportedLocales

説明

IBM Marketing Operations のインストール済み環境で利用できるロケールを指定します。使用しているロケールだけをリストしてください。リストするロケールごとにサーバー上のメモリーが使用されます。使用されるメモリーの量は、テンプレートのサイズと数によって異なります。

初期インストールまたはアップグレード後にロケールを追加する場合は、アップグレード・サブレットを再実行する必要があります。詳しくは、アップグレードの資料を参照してください。

この値を変更した場合、その変更を有効にするには、Marketing Operations 配置を停止し、再始動する必要があります。

デフォルト値

en_US

defaultLocale

説明

IBM Marketing Operations において、Marketing Operations 管理者が特定のユーザーについて明示的にオーバーライドしない限り、すべてのユーザーに対して表示されるサポート・ロケールを指定します。

この値を変更した場合、その変更を有効にするには、Marketing Operations 配置を停止し、再始動する必要があります。

デフォルト値

en_US

Marketing Operations | navigation

このカテゴリのプロパティは、Uniform Resource Identifier、URL、ポートなどのナビゲーション用のオプションを指定します。

welcomePageURI

説明

IBM Marketing Operations 索引ページの Uniform Resource Identifier。この値は、IBM EMM アプリケーションによって内部的に使用されます。この値を変更することは勧められていません。

デフォルト値

affiniumPlan.jsp?cat=projectlist

projectDetailpageURI

説明

IBM Marketing Operations 詳細設定ページの Uniform Resource Identifier。この値は、IBM EMM アプリケーションによって内部的に使用されます。この値を変更することは勧められていません。

デフォルト値

ブランク

seedName

説明

IBM EMM アプリケーションによって内部的に使用されます。この値を変更することは勧められていません。

デフォルト値

Plan

type

説明

IBM EMM アプリケーションによって内部的に使用されます。この値を変更することは勧められていません。

デフォルト値

Plan

httpPort

説明

アプリケーション・サーバーで IBM Marketing Operations アプリケーションとの接続に使用されるポート番号。

デフォルト値

7001

httpsPort

説明

アプリケーション・サーバーで IBM Marketing Operations アプリケーションとのセキュア接続に使用されるポート番号。

デフォルト値

7001

serverURL

説明

IBM Marketing Operations インストールの URL。HTTP または HTTPS プロトコルのロケーターを受け入れます。

デフォルト値

`http://<server>:<port>/plan`

logoutURL

説明

内部的に使用されます。この値を変更することは勧められていません。

IBM Marketing Platform は、ユーザーがスイートでログアウト・リンクをクリックしたときに、この値を使用して、それぞれの登録済みアプリケーションのログアウト・ハンドラーを呼び出します。

デフォルト値

`/uapsysservlet?cat=sysmodules&func=logout`

displayName

説明

内部的に使用されます。

デフォルト値

Marketing Operations

Marketing Operations | バージョン情報

このセクションの構成プロパティは、IBM Marketing Operations インストール済み環境に関する情報をリストします。これらのプロパティは編集できません。

displayName

説明

製品の表示名。

値

IBM Marketing Operations

releaseNumber

説明

現在インストールされているリリース。

値

`<version>.<release>.<modification>`

copyright

説明

著作権の年。

値

<year>

os

説明

IBM Marketing Operations がインストールされているオペレーティング・システム。

値

<operating system and version>

java

説明

Java の現在のバージョン。

値

<version>

support

説明

文書を読み取り、サービス要求を出します。

値

http://www-947.ibm.com/support/entry/portal/open_service_request

appServer

説明

IBM Marketing Operations がインストールされているアプリケーション・サーバーのアドレス。

値

<IP address>

otherString

説明

値

ブランク

Marketing Operations | umoConfiguration

これらのプロパティは、IBM Marketing Operations の基本構成についての情報を指定します。

serverType

説明

アプリケーション・サーバー・タイプ。カレンダーのエクスポートに使用されます。

有効な値

WEBLOGIC または WEBSPPHERE

デフォルト値

<server type>

userManagerSyncTime

説明

スケジュール設定された IBM Marketing Platform との同期化の時間間隔 (ミリ秒)。

デフォルト値

10800000 (ミリ秒: 3 時間)

firstMonthInFiscalYear

説明

会計年度が開始する月を設定します。アカウントの「サマリー」タブには、そのアカウントの各会計年度の月別予算情報をリストした表示専用テーブルがあります。このテーブルの最初の月は、このパラメーターによって決まります。

1 月は 0 で表されます。会計年度が 4 月に始まるようにするには、**firstMonthInFiscalYear** を 3 に設定します。

有効な値

0 から 11 の整数

デフォルト値

0

maximumItemsToBeRetainedInRecentVisits

説明

「最近使用した項目」メニューに表示する、最近表示したページへのリンクの最大数。

デフォルト値

10 (リンク)

maxLimitForTitleString

説明

ページ・タイトルに表示できる最大文字数。指定された文字数よりもタイトルが長い場合、IBM Marketing Operations はタイトルを切り取って短くします。

デフォルト値

40 (文字)

maximumLimitForBulkUploadItems

説明

同時にアップロードできる添付ファイルの最大数。

デフォルト値

5 (添付ファイル)

workingDaysCalculation

説明

IBM Marketing Operations が期間を計算する方法を制御します。

有効な値

- bus: 営業日のみ、営業日のみを含みます。休日も週末も含まれません。
- wkd: 営業日 + 週末、営業日と週末を含みます。休日は含まれません。
- off: 営業日 + 休日、すべての営業日と休日を含みます。週末は含まれません。
- すべて: カレンダーのすべての日が含まれます。

デフォルト値

all

validateAllWizardSteps

説明

ユーザーがウィザードを使用してプログラム、プロジェクト、または要求を作成するときに、IBM Marketing Operations によって、現行ページの必須フィールドに値が設定されているかどうか自動的に検証されます。このパラメーターは、ユーザーが「終了」をクリックしたときに、Marketing Operations がすべてのページ (タブ) の必須フィールドを検証するかどうかを制御します。

有効な値

- True: Marketing Operations は、ユーザーが表示しなかったページの必須フィールドを検査します (ワークフロー、トラッキング、添付ファイルを除く)。必須フィールドがブランクの場合、ウィザードはそのページを開き、エラー・メッセージを表示します。
- False: Marketing Operations は、ユーザーが表示しなかったページの必須フィールドを検証しません。

デフォルト値

True

enableRevisionHistoryPrompt

説明

ユーザーがプロジェクト、要求、または承認を保存するときに変更コメントを追加するよう求めるプロンプトが出るようにします。

有効な値

True | False

デフォルト値

False

useForecastDatesInTaskCalendar

説明

タスクがカレンダー・ビューに表示されるときに使用される日付のタイプを指定します。

有効な値

- True: 予測/実際の日付を使用してタスクを表示します。
- False: ターゲット日を使用してタスクを表示します。

デフォルト値

False

copyRequestProjectCode

説明

プロジェクト・コード (PID) を要求からプロジェクトに引き継ぐかどうかを制御します。このパラメーターを False に設定した場合、プロジェクトと要求は、異なるコードを使用します。

有効な値

True | False

デフォルト値

True

projectTemplateMonthlyView

説明

プロジェクト・テンプレートのワークフローで月次ビューが許可されるかどうかを制御します。

有効な値

True | False

デフォルト値

False

disableAssignmentForUnassignedReviewers

説明

承認のために作業を役割別に割り当てる方法を指定します。

disableAssignmentForUnassignedReviewers パラメーターは、「スタッフ」タブにある「役割別に作業を割り当て」の、ワークフロー承認における承認者の割り当てに関する動作を制御します。

有効な値

- **True:** 「スタッフ」タブにおいて未割り当てのレビュー担当者は、新しいステップとして承認に追加されません。
 - 追加オプション: 所有者によって割り当てられた既存の承認者で、割り当てられた役割を持たないものは、変更されません。「スタッフ」タブに役割が「未割り当て」のレビュー担当者が存在しても、新しい承認者ステップは追加されません。
 - 置換オプション: 所有者によって割り当てられた既存の承認者で、役割を持たないものは、空白に置き換えられます。「スタッフ」タブに役割が「未割り当て」のレビュー担当者が存在しても、新しい承認者ステップは追加されません。
- **False:** 未割り当てのレビュー担当者は、承認に追加されます。
 - 追加オプション: 定義された役割がない所有者割り当てステップが承認に存在する場合は、役割を持たないすべてのレビュー担当者が、レビュー担当者として承認に追加されます。
 - 置換オプション: 承認における既存の承認者は、「スタッフ」タブの未割り当て承認者に置き換えられます。

デフォルト値

False

enableApplicationLevelCaching

説明

アプリケーション・レベルのキャッシングを有効にするかどうかを示します。キャッシング・メッセージのマルチキャストが有効になっていないクラスター環境で最良の結果を得るには、Marketing Operations のアプリケーション・レベルのキャッシングをオフにすることを検討してください。

有効な値

True | False

デフォルト値

True

customAccessLevelEnabled

説明

カスタム・アクセス・レベル (プロジェクトの役割) を IBM Marketing Operations で使用するかどうかを決定します。

有効な値

- **True:** プロジェクトおよび要求に対するユーザー・アクセスは、オブジェクト・アクセス・レベルおよびカスタム・アクセス・レベル (プロジェクトの役割) に従って評価されます。カスタム・タブのタブ・セキュリティが有効になります
- **False:** プロジェクトおよび要求へのユーザー・アクセスは、オブジェクト・アクセス・レベル (オブジェクトの暗黙の役割) のみに従って評価され、カスタム・タブのタブ・セキュリティは無効になります。

デフォルト値

True

enableUniqueldsAcrossTemplatizableObjects

説明

プログラム、プロジェクト、計画、請求書を含むテンプレートから作成されたすべてのオブジェクトにおいて、固有の内部 ID を使用するかどうかを決定します。

有効な値

- True に設定すると、テンプレートから作成されたすべてのオブジェクトにおいて固有の内部 ID を使用できます。この構成を使用すると、オブジェクト・タイプが異なる場合でも、同じテーブルをシステムが使用できるようになるため、オブジェクトをまたがるレポート作成が簡単になります。
- False に設定すると、テンプレートから作成されたすべてのオブジェクトにおいて固有の内部 ID を使用できなくなります。

デフォルト値

True

FMEnabled

説明

財務管理モジュールを有効または無効にします。これにより、製品に「アカウント」、「請求書」、および「予算」のタブが表示されるかどうかが決まります。

有効な値

True | False

デフォルト値

False

FMProjVendorEnabled

説明

プロジェクト明細項目のベンダー列の表示/非表示を指定するためのパラメーター。

有効な値

True | False

デフォルト値

False

FMPrgmVendorEnabled

説明

プログラム明細項目のベンダー列の表示/非表示を指定するためのパラメーター。

有効な値

True | False

デフォルト値

False

Marketing Operations | umoConfiguration | Approvals

これらのプロパティは、承認に関するオプションを指定します。

specifyDenyReasons

説明

承認を拒否する理由のカスタマイズ可能なリストを有効にします。有効にされると、管理者は「承認拒否理由」リストにオプションを設定してから、拒否理由を各ワークフロー・テンプレートおよびワークフローを定義する各プロジェクト・テンプレートに関連付けます。承認または承認に含まれる項目を拒否するユーザーは、事前定義されたこれらの理由のいずれかを選択する必要があります。

有効な値

True | False

デフォルト値

False

Marketing Operations | umoConfiguration | templates

これらのプロパティは、IBM Marketing Operations におけるテンプレートについての情報を指定します。最良の結果を得るには、これらのパラメーターのデフォルト値を変更しないでください。

templatesDir

説明

すべてのプロジェクト・テンプレート定義を格納する XML ファイルを入れるためのディレクトリーを指定します。

絶対パスを使用してください。

デフォルト値

<IBM_EMM_Home>/<MarketingOperations_Home>/templates

assetTemplatesFile

説明

資産のテンプレートを定義する XML ファイル。このファイルは、**templatesDir** で指定されたディレクトリー内にある必要があります。

デフォルト値

asset_templates.xml

planTemplatesFile

説明

計画のテンプレートを定義する XML ファイル。このファイルは、**templatesDir** で指定されたディレクトリ内にある必要があります。

デフォルト値

plan_templates.xml

programTemplatesFile

説明

プログラムのテンプレートを定義する XML ファイル。このファイルは、**templatesDir** で指定されたディレクトリ内にある必要があります。

デフォルト値

program_templates.xml

projectTemplatesFile

説明

プロジェクトのテンプレートを定義する XML ファイル。このファイルは、**templatesDir** で指定されたディレクトリ内にある必要があります。

デフォルト値

project_templates.xml

invoiceTemplatesFile

説明

請求書のテンプレートを定義する XML ファイル。このファイルは、**templatesDir** で指定されたディレクトリ内にある必要があります。

デフォルト値

invoice_templates.xml

componentTemplatesFile

説明

カスタム・マーケティング・オブジェクト・タイプのテンプレートを定義する XML ファイル。このファイルは、**templatesDir** で指定されたディレクトリ内にある必要があります。

デフォルト値

component_templates.xml

metricsTemplateFile

説明

メトリックのテンプレートを定義する XML ファイル。このファイルは、**templatesDir** で指定されたディレクトリ内にある必要があります。

デフォルト値

metric_definition.xml

teamTemplatesFile

説明

チームのテンプレートを定義する XML ファイル。このファイルは、**templatesDir** で指定されたディレクトリー内にある必要があります。

デフォルト値

team_templates.xml

offerTemplatesFile

説明

オファーのテンプレートを定義する XML ファイル。このファイルは、**templatesDir** で指定されたディレクトリー内にある必要があります。

デフォルト値

uap_sys_default_offer_comp_type_templates.xml

Marketing Operations | umoConfiguration | attachmentFolders

これらのプロパティは、添付ファイルのアップロードと保管に使用するディレクトリーを指定します。

uploadDir

説明

プロジェクトの添付ファイルが保管されるアップロード・ディレクトリー。

デフォルト値

<MarketingOperations_Home>/projectattachments

planUploadDir

説明

計画の添付ファイルが保管されるアップロード・ディレクトリー。

デフォルト値

<MarketingOperations_Home>/planattachments

programUploadDir

説明

プログラムの添付ファイルが保管されるアップロード・ディレクトリー。

デフォルト値

<MarketingOperations_Home>/programattachments

componentUploadDir

説明

マーケティング・オブジェクトの添付ファイルが保管されるアップロード・ディレクトリー。

デフォルト値

`<MarketingOperations_Home>/componentattachments`

taskUploadDir

説明

タスクの添付ファイルが保管されるアップロード・ディレクトリー。

デフォルト値

`<MarketingOperations_Home>/taskattachments`

approvalUploadDir

説明

承認項目が保管されるアップロード・ディレクトリー。

デフォルト値

`<MarketingOperations_Home>/approvalitems`

assetUploadDir

説明

資産が保管されるアップロード・ディレクトリー。

デフォルト値

`<MarketingOperations_Home>/assets`

accountUploadDir

説明

アカウントの添付ファイルが保管されるアップロード・ディレクトリー。

デフォルト値

`<MarketingOperations_Home>/accountattachments`

invoiceUploadDir

説明

請求書の添付ファイルが保管されるアップロード・ディレクトリー。

デフォルト値

`<MarketingOperations_Home>/invoiceattachments`

graphicalRefUploadDir

説明

属性イメージが保管されるアップロード・ディレクトリー。

デフォルト値

`<MarketingOperations_Home>/graphicalrefimages`

templateImageDir

説明

テンプレート・イメージが保管されるアップロード・ディレクトリー。

デフォルト値

<MarketingOperations_Home>/images

recentDataDir

説明

各ユーザーの最近のデータ (直列化済み) を保管する一時ディレクトリー。

デフォルト値

<MarketingOperations_Home>/recentdata

workingAreaDir

説明

グリッドのインポート時にアップロードされた CSV ファイルを保管する一時ディレクトリー。

デフォルト値

<MarketingOperations_Home>/umotemp

managedListDir

説明

管理対象のリスト定義が保管されるアップロード・ディレクトリー。

デフォルト値

<MarketingOperations_Home>/managedList

Marketing Operations | umoConfiguration | Email

これらのプロパティーは、IBM Marketing Operations における E メール通知の送信に関する情報を指定します。

notifyEMailMonitorJavaMailHost

説明

E メール通知メール・サーバーの DNS ホスト名またはそのドット形式の IP アドレスのいずれかを指定するストリング (オプション)。SMTP サーバーのマシン名または IP アドレスに設定されます。

セッション・パラメーターを使用する既存の JavaMail セッションを IBM Marketing Operations に提供しておらず、委任が「完了」とマークされている場合は、このパラメーターが必要です。

デフォルト値

[CHANGE-ME]

notifyDefaultSenderEmailAddress

説明

有効な E メール・アドレスを設定します。システムは、通知 E メール・メッセージを送信するための有効な E メール・アドレスがない場合には、このアドレスに E メール・メッセージを送信します。

デフォルト値

[CHANGE-ME]

notifySenderAddressOverride

説明

このパラメーターを使用して、通知における「返信」および「差出人」の E メール・アドレスの標準値を指定します。デフォルトでは、これらのアドレスには、イベント所有者の E メール・アドレスが設定されます。

デフォルト値

ブランク

Marketing Operations | umoConfiguration | markup

これらのプロパティは、マークアップ・オプションを指定します。IBM Marketing Operations には、添付ファイルのコメントを作成するためのマークアップ・ツールが用意されています。Adobe Acrobat マークアップまたはネイティブ Marketing Operations マークアップのいずれかを使用できます。使用するオプションを構成するには、このカテゴリーのプロパティを使用します。

markupServerType

説明

使用するマークアップ・オプションを決定します。

有効な値

- SOAP を指定すると、ユーザーは PDF 文書のマークアップを編集および表示できます。マークアップには Adobe Acrobat Professional が必要です。これを指定した場合、ユーザーはネイティブ Marketing Operations メソッドを使用して Web ブラウザーで以前に作成されたマークアップを表示できません。

SOAP を指定する場合は、**markupServerURL** および **useCustomMarkup** パラメーターも構成する必要があります。

- MCM を指定すると、ユーザーが Web ブラウザーでマークアップを編集および表示できるネイティブ Marketing Operations マークアップ・メソッドを使用できます。これを指定した場合、ユーザーは、以前に Adobe Acrobat を使用して PDF で作成されたマークアップを編集することも表示することもできません。
- ブランクの場合、マークアップ機能は無効になり、「マークアップの表示/追加」リンクは表示されません。

デフォルト値

markupServerURL

説明

markupServerType = SOAP に依存します。

マークアップ・サーバーをホストするコンピューターの URL を設定します (Web アプリケーション・サーバーが **listen** に使用するポートの番号を含みます)。この URL には、完全修飾ホスト名が含まれていなければなりません。

HTTP または HTTPS プロトコルのロケーターを受け入れます。

デフォルト値

`http://<server>:<port>/plan/services/collabService?wsdl`

useCustomMarkup

説明

Windows ユーザーが「**Acrobat コメントの送受信 (Acrobat Send Receive Comments)**」ボタンを使用してマークアップ・コメントを送受信できるかどうかを決定します。

有効な値

- **True:** Windows ユーザーはマークアップ・コメントを送受信するのに「**Acrobat コメントの送受信 (Acrobat Send Receive Comments)**」ボタンのみ使用できます。クライアント・サイドの Acrobat インストール済み環境の `javascripts` フォルダで `UMO_Markup_Collaboration.js` ファイルが利用可能でなければなりません。

markupServerType = SOAP に依存します。

- **False:** Windows ユーザーはマークアップ・コメントを送受信するのに Marketing Operations 「**コメントの送信 (Send Comments)**」カスタム・ボタンのみ使用できます。Acrobat ボタンは使用できません。IBM Marketing Operations コメント・ツールバーを使用できるように Acrobat を構成する必要があります。PDF ファイルのレビューについて詳しくは、「*IBM Marketing Operations ユーザー・ガイド*」を参照してください。

デフォルト値

True

instantMarkupFileConversion

説明

True の場合、IBM Marketing Operations は、ユーザーがマークアップの項目を初めて開くときに PDF 添付資料からイメージへの変換を実行するのではなく、PDF 添付資料がアップロードされるとすぐにこの変換を実行します。

有効な値

True | False

デフォルト値

False

Marketing Operations | umoConfiguration | grid

これらのプロパティは、グリッドに関するオプションを指定します。

gridmaxrow

説明

グリッドで取得される最大行数を定義する整数 (オプション)。デフォルトの -1 の場合は、すべての行が取得されます。

デフォルト値

-1

reloadRuleFile

説明

グリッド検証プラグインを再ロードする必要があるかどうかを示すブール・パラメーター (オプション)。

有効な値

True | False

デフォルト値

True

gridDataValidationClass

説明

カスタム・グリッド・データ検証クラスを指定するパラメーター (オプション)。指定しない場合は、デフォルトの組み込みプラグインがグリッド・データ検証に使用されます。

デフォルト値

ブランク

tvcDataImportFieldDelimiterCSV

説明

グリッドにインポートされたデータの解析に使用する区切り文字。デフォルトはコンマ (,) です。

デフォルト値

, (コンマ)

maximumFileSizeToImportCSVFile

説明

TVC のコンマ区切りデータをインポートするときにアップロードできる最大ファイル・サイズ (MB) を表します。

デフォルト値

0 (無制限)

maximumRowsToBeDisplayedPerPageInGridView

説明

グリッド・ビューの 1 ページ当たりの表示行数を指定します。

有効な値

正整数

デフォルト値

100

griddataxsd

説明

グリッド・データ XSD ファイルの名前。

デフォルト値

griddataschema.xsd

gridpluginxsd

説明

グリッド・プラグイン XSD ファイルの名前。

デフォルト値

gridplugin.xsd

gridrulesxsd

説明

グリッド・ルール XSD ファイルの名前。

デフォルト値

gridrules.xsd

Marketing Operations | umoConfiguration | workflow

これらのプロパティは、IBM Marketing Operations におけるワークフローについてのオプションを指定します。

hideDetailedDateTime

説明

タスク・ページにおける詳細な日時のパラメーターの表示/非表示パラメーター (オプション)。

有効な値

True | False

デフォルト値

False

daysInPastRecentTask

説明

このパラメーターは、タスクが「最新」と見なされる期間を決めます。タスクが「アクティブ」であり、開始されてからの期間がこの日数未満であるか、またはタスクの「ターゲット終了日」が現在日付とこの日数前の日付との間にある場合、そのタスクは最新のタスクとして表示されます。

有効な値

正整数

デフォルト値

14 (日)

daysInFutureUpcomingTasks

説明

このパラメーターは、将来の何日間について次のタスクを検索するかを決定します。タスクが次の **daysInFutureUpcomingTasks** の期間に開始する場合、または現在日付の前に終了しない場合、そのタスクは次のタスクとなります。

有効な値

正整数

デフォルト値

14 (日)

beginningOfDay

説明

営業日の始業時間。このパラメーターは、小数形式の期間を使用したワークフローの日時の計算に使用されます。

有効な値

0 から 12 の整数

デフォルト値

9 (9 AM)

numberOfHoursPerDay

説明

1 日当たりの時間数。このパラメーターは、小数形式の期間を使用したワークフローの日時の計算に使用されます。

有効な値

1 から 24 の整数

デフォルト値

8 (時間)

mileStoneRowBGColor

説明

ワークフロー・タスクの背景色を定義します。この値を指定するには、色を表す 6 文字の 16 進コードの前に # 文字を挿入します。例えば、#0099CC と指定します。

デフォルト値

#DDDDDD

Marketing Operations | umoConfiguration | integrationServices

これらのプロパティは、IBM Marketing Operations 統合サービス・モジュールについての情報を指定します。統合サービス・モジュールは、Marketing Operations の機能を Web サービスとトリガーを使用して拡張します。

enableIntegrationServices

説明

統合サービス・モジュールを有効および無効にします。

有効な値

True | False

デフォルト値

False

integrationProcedureDefinitionPath

説明

カスタム・プロシージャ定義 XML ファイルへの絶対ファイル・パス (オプション)。

デフォルト値

<IBM_EMM_Home>/<MarketingOperations_Home>/devkits/integration/
examples/src/procedure/procedure-plugins.xml

integrationProcedureClasspathURL

説明

カスタム・プロシージャのクラスパスへの URL。

デフォルト値

file:///<IBM_EMM_Home>/<MarketingOperations_Home>/devkits/
integration/examples/classes/

Marketing Operations | umoConfiguration | campaignIntegration

defaultCampaignPartition

説明

IBM Marketing Operations が IBM Campaign と統合されていると、このパラメーターは、プロジェクト・テンプレートに campaign-partition-id が定義されていない場合にデフォルトの Campaign パーティションを指定します。

デフォルト値

partition1

webServiceTimeoutInMilliseconds

説明

Web サービス統合 API 呼び出しに追加されます。このパラメーターは、Web サービス API 呼び出しのタイムアウトとして使用されます。

デフォルト値

1800000 ミリ秒 (30 分)

Marketing Operations | umoConfiguration | reports

これらのプロパティは、IBM Marketing Operations が使用するレポートについての情報を指定します。

reportsAnalysisSectionHome

説明

分析セクション・レポートのホーム・ディレクトリーを示します。

デフォルト値

/content/folder[@name='Affinium Plan']

reportsAnalysisTabHome

説明

分析タブ・レポートのホーム・ディレクトリーを示します。

デフォルト値

/content/folder[@name='Affinium Plan - Object Specific Reports']

cacheListOfReports

説明

このパラメーターは、オブジェクト・インスタンスの分析ページにおけるレポート・リストのキャッシングを有効にします。

有効な値

True | False

デフォルト値

False

Marketing Operations | umoConfiguration | invoiceRollup

invoiceRollupMode

説明

ロールアップがどのように発生するかを指定します。許容値は以下のとおりです。

有効な値

- **immediate**: 請求書が支払い済みとマークされるたびに、ロールアップが発生します。
- **schedule**: スケジュールに基づいてロールアップが発生します。

このパラメーターが **schedule** に設定されると、システムは以下のパラメーターを使用して、ロールアップ発生のタイミングを決定します。

- **invoiceRollupScheduledStartTime**
- **invoiceRollupScheduledPollPeriod**

デフォルト値

immediate

invoiceRollupScheduledStartTime

説明

invoiceRollupMode が **schedule** である場合、このパラメーターは以下のよう
に使用されます。

- このパラメーターに値 (例えば、11:00 pm) が含まれている場合、その値は、スケジュールが開始するための開始時刻となります。
- このパラメーターが未定義の場合は、サーバーの始動時にロールアップ・スケジュールが開始します。

invoiceRollupMode が **immediate** である場合、このパラメーターは使用されません。

デフォルト値

11:00 pm

invoiceRollupScheduledPollPeriod

説明

invoiceRollupMode が **schedule** である場合、このパラメーターは、ロールアップが発生するためのポーリング期間 (秒) を指定します。

invoiceRollupMode が **immediate** である場合、このパラメーターは使用されません。

デフォルト値

3600 (1 時間)

Marketing Operations | umoConfiguration | database

これらのプロパティは、IBM Marketing Operations に使用するデータベースについての情報を指定します。

fileName

説明

JNDI 検索を使用してデータ・ソースをロードするためのファイルへのパス。

デフォルト値

plan_datasources.xml

sqlServerSchemaName

説明

使用するデータベース・スキーマを指定します。このパラメーターは、IBM Marketing Operations データベースに SQL Server を使用している場合にのみ適用されます。

デフォルト値

dbo

db2ServerSchemaName

重要: このパラメーター用に提供されたデフォルト値を変更することは勧められていません。

説明

IBM EMM アプリケーションによって内部的に使用されます。

デフォルト値

ブランク

thresholdForUseOfSubSelects

説明

ここで指定したレコード数を超えると、(リスト・ページの) SQL の IN 節で、IN 節内の実際のエンティティ ID の代わりに副照会を使用する必要があります。このパラメーターを設定すると、大規模なアプリケーション・データ・セットが含まれる IBM Marketing Operations インストール済み環境のパフォーマンスが向上します。ベスト・プラクティスとして、パフォーマンスの問題が発生しない限りこの値を変更しないでください。このパラメーターがないか、あるいはコメント化されている場合、データベースは、しきい値が大きな値に設定されるかのように動作します。

デフォルト値

3000 (レコード)

commonDataAccessLayerFetchSize

説明

このパラメーターは、パフォーマンスに影響されやすい特定の重要な照会について、結果セットの取り出しサイズを指定します。

デフォルト値

0

commonDataAccessLayerMaxResultSetSize

説明

このパラメーターは、パフォーマンスに影響されやすい特定の重要な照会について、結果セットの最大サイズを指定します。

デフォルト値

-1

useDBSortForAllList

説明

このパラメーターは、すべての IBM Marketing Operations リスト・ハンドラーを構成するために使用されます。特定のリストのページング動作をオーバーライドするには、別の **useDBSortFor<module>List** パラメーターを使用します。

有効な値

- True: データベースから一度に 1 ページのリスト・データを取得します。
- False: すべてのリスト・データをキャッシュに入れます。

デフォルト値

True

useDBSortForPlanList

説明

このパラメーターは、計画リスト・ハンドラーを構成するために使用されます。

有効な値

- True: データベースから一度に 1 ページのリスト・データを取得します。
- False: すべてのリスト・データをキャッシュに入れます。

デフォルト値

True

useDBSortForProjectList

説明

このパラメーターは、プロジェクト・リスト・ハンドラーを構成するために使用されます。

有効な値

- True: データベースから一度に 1 ページのリスト・データを取得します。
- False: すべてのリスト・データをキャッシュに入れます。

デフォルト値

True

useDBSortForTaskList

説明

このパラメーターは、タスク・リスト・ハンドラーを構成するために使用されます。

有効な値

- True: データベースから一度に 1 ページのリスト・データを取得します。
- False: すべてのリスト・データをキャッシュに入れます。

デフォルト値

True

useDBSortForProgramList

説明

このパラメーターは、プログラム・リスト・ハンドラーを構成するために使用されます。

有効な値

- True: データベースから一度に 1 ページのリスト・データを取得します。
- False: すべてのリスト・データをキャッシュに入れます。

デフォルト値

True

useDBSortForApprovalList

説明

このパラメーターは、承認リスト・ハンドラーを構成するために使用されます。

有効な値

- True: データベースから一度に 1 ページのリスト・データを取得します。
- False: すべてのリスト・データをキャッシュに入れます。

デフォルト値

True

useDBSortForInvoiceList

説明

このパラメーターは、請求書リスト・ハンドラーを構成するために使用されます。

有効な値

- True: データベースから一度に 1 ページのリスト・データを取得します。
- False: すべてのリスト・データをキャッシュに入れます。

デフォルト値

True

useDBSortForAlerts

説明

このパラメーターは、アラート・リスト・ハンドラーを構成するために使用されます。

有効な値

- True: データベースから一度に 1 ページのリスト・データを取得します。
- False: すべてのリスト・データをキャッシュに入れます。

デフォルト値

True

Marketing Operations | umoConfiguration | listingPages

これらのプロパティは、IBM Marketing Operations のページ上におけるマーケティング・オブジェクトやマーケティング・プロジェクトなどのリスト項目についての情報を指定します。

listItemsPerPage

説明

1 つのリスト・ページに表示される項目 (行) の数を指定します。この値は、0 より大きくする必要があります。

デフォルト値

10

listPageGroupSize

説明

リスト・ページのリスト・ナビゲーターに表示されるページ番号のサイズを指定します。例えば、ページ 1 - 5 は、ページ・グループです。この値は、0 より大きくする必要があります。

デフォルト値

5

maximumItemsToBeDisplayedInCalendar

説明

カレンダーに表示されるオブジェクト（計画、プログラム、プロジェクト、またはタスク）の最大数。このパラメーターは、ユーザーがカレンダー・ビューを選択した場合に表示するオブジェクトの数を制限します。数値 0 は、制限がないことを示します。

デフォルト値

0

listDisplayShowAll

説明

リスト・ページに「すべて表示」リンクを表示します。

デフォルト値

False

有効な値

True | False

Marketing Operations | umoConfiguration | objectCodeLocking

これらのプロパティは、IBM Marketing Operations における計画、プログラム、プロジェクト、資産、およびマーケティング・オブジェクトのオブジェクト・ロックについての情報を指定します。

enablePersistentObjectLock

説明

IBM Marketing Operations がクラスター環境に配置されている場合は、このパラメーターを True に設定する必要があります。データベースにおいてオブジェクト・ロック情報は永続的です。

有効な値

True | False

デフォルト値

False

lockProjectCode

説明

ユーザーがプロジェクトの「サマリー」タブでプロジェクト・コードまたは PID を編集できるかどうかを決定します。

有効な値

- True: ロックを有効にします。
- False: ロックを無効にします。

デフォルト値

True

lockProgramCode

説明

ユーザーがプログラムの「サマリー」タブでプログラム・コードまたは PID を編集できるかどうかを決定します。

有効な値

- True: ロックを有効にします。
- False: ロックを無効にします。

デフォルト値

True

lockPlanCode

説明

ユーザーが計画の「計画サマリー」タブで計画コードまたは PID を編集できるかどうかを決定します。

有効な値

- True: ロックを有効にします。
- False: ロックを無効にします。

デフォルト値

True

lockMarketingObjectCode

説明

ユーザーがマーケティング・オブジェクトの「サマリー」タブでマーケティング・オブジェクト・コードまたは PID を編集できるかどうかを決定します。

有効な値

- True: ロックを有効にします。
- False: ロックを無効にします。

デフォルト値

True

lockAssetCode

説明

ユーザーが資産の「サマリー」タブで資産コードまたは PID を編集できるかどうかを決定します。

有効な値

- True: ロックを有効にします。
- False: ロックを無効にします。

デフォルト値

True

Marketing Operations | umoConfiguration | thumbnailGeneration

これらのプロパティは、IBM Marketing Operations がサムネールを生成する方法とタイミングについての情報を指定します。

trueTypeFontDir

説明

True Type フォントが存在するディレクトリーを指定します。このパラメーターは、Aspose を使用する非 Windows オペレーティング・システムでサムネールを生成する場合には必須です。Windows インストール済み環境の場合、このパラメーターはオプションです。

デフォルト値

ブランク

coreThreadPoolSize

説明

サムネール・ジェネレーター・スレッドのスレッド・プールに保持される永続スレッド数を指定します。

デフォルト値

5

maxThreadPoolSize

説明

サムネール・ジェネレーター・スレッドのスレッド・プールで許可される最大スレッド数を指定します。

デフォルト値

10

threadKeepAliveTime

説明

サムネール・ジェネレーター・スレッドのキープアライブ時間を構成するためのパラメーター。

デフォルト値

60

threadQueueSize

説明

サムネール・ジェネレーター・スレッドのスレッド・キュー・サイズを構成するためのパラメーター。

デフォルト値

disableThumbnailGeneration**説明**

アップロードされた文書のためにサムネール・イメージを生成するかどうかを決めます。値 `True` は、サムネールの生成を有効にします。

デフォルト値

`False`

有効な値

`True` | `False`

markupImgQuality**説明**

レンダリングされるページに適用される拡大率またはズーム係数。

デフォルト値

`1`

Marketing Operations | umoConfiguration | Scheduler | intraDay

このプロパティは、対象日におけるスケジューラーの実行頻度を指定します。

schedulerPollPeriod**説明**

バッチ・ジョブが、プロジェクトの正常性ステータスの実行を毎日計算する際の頻度を秒数で定義します。

注: 日次のバッチ・ジョブだけが、レポートで使用するプロジェクトの正常性ステータスの履歴を更新します。

デフォルト値

60 (秒)

Marketing Operations | umoConfiguration | Scheduler | daily

このプロパティは、スケジューラーの毎日の開始時刻を指定します。

schedulerStartTime**説明**

プロジェクトの正常性ステータスを計算するバッチ・ジョブの開始時刻を定義します。このジョブは、以下のことも行います。

- レポートで使用するプロジェクトの正常性ステータスの履歴を更新します。
- E メール通知を配信登録しているユーザーへの配布を開始します。

注: システムがこのバッチ・ジョブを開始するのは、計算がまだ実行されていない場合だけです。ジョブが **intraDay** パラメーターとは異なる時刻に、そしてユーザーがこの計算を手動で要求する可能性の低い時刻に開始するように、このパラメーターを定義してください。

デフォルト値

11:00 pm

Marketing Operations | umoConfiguration | Notifications

これらのプロパティは、イベント・モニターについての情報を含む、IBM Marketing Operationsにおける通知に関する情報を指定します。

notifyPlanBaseURL

説明

IBM Marketing Operations 配置の URL (ホスト名とポート番号を含む)。Marketing Operations では、Marketing Operations 内の他の情報へのリンクを含む通知に、この URL が組み込まれます。

注: メール・クライアントと IBM Marketing Operations サーバーを同じサーバー上で実行している場合以外は、「localhost」をサーバー名として使用しないでください。

デフォルト値

`http://<server>:<port>/plan/affiniumplan.jsp`

notifyDelegateClassName

説明

サービスによってインスタンス化される委任実装の完全修飾 Java クラス名。このクラスは、`com.unicacorp.afc.service.IServiceImpl` インターフェースを実装する必要があります。指定しない場合は、デフォルトでローカル実装になります。

デフォルト値

ブランク

notifyIsDelegateComplete

説明

委任実装が完了したかどうかを示すブール・ストリング (オプション)。指定しない場合は、デフォルトで `True` に設定されます。

デフォルト値

`True`

有効な値

`True` | `False`

notifyEventMonitorStartTime

説明

IBM Marketing Operations の始動後、初めてイベント通知モニターの処理が開始される時刻を指定します。値の形式は、現行ロケールの `java.text.DateFormat` クラスのショート・バージョンに従ってください。例えば、米国英語ロケールの場合、有効なストリングとしては 11:45 pm などが考えられます。

デフォルト値

ブランク (Marketing Operations の始動直後)。

notifyEventMonitorPollPeriod

説明

イベント・モニターがポーリングとポーリングの間にスリープするおおよその時間 (秒) を定義します。ポーリング期間とポーリング期間の間、イベントはイベントキューに累積されます。ポーリング期間が短いほど通知の処理が早く行われますが、システムのオーバーヘッドが大きくなる場合があります。既定値を削除して値をブランクのままにすると、ポーリング期間はデフォルトで短時間 (通常は 1 分未満) に設定されます。

デフォルト値

5 (秒)

notifyEventMonitorRemoveSize

説明

1 回でキューから削除するイベント数を指定します。 イベント・モニターは、イベント・キューからイベントを、この値で指定された数ずつキューが空になるまで削除します。

注: イベント処理のパフォーマンスを向上させるために、この値を 1 以外の数に設定することもできます。ただし、削除されたイベントが処理される前にサービス・ホストがダウンした場合にイベントが失われる恐れがあります。

デフォルト値

10

alertCountRefreshPeriodInSeconds

説明

アラート数に関するシステム全体のアラート数リフレッシュ期間 (秒) を指定します。この数は、ユーザーのログイン後にナビゲーション・バーの上部付近に表示されます。

注: マルチユーザー環境では、リフレッシュ期間を変更してポーリングを高速にすると、パフォーマンスに影響が出る場合があります。

デフォルト値

180 (3 分)

Marketing Operations | umoConfiguration | Notifications | Email

これらのプロパティは、IBM Marketing Operationsにおける E メール通知についての情報を指定します。

notifyEmailMonitorStartTime

説明

IBM Marketing Operations の始動後、初めて E メール・モニターが処理を開始する時刻を指定します。値の形式は、現行ロケールの `java.text.DateFormat` クラスのショート・バージョンに従ってください。例えば、米国英語ロケールの場合、有効なストリングとしては 11:59 pm などが考えられます。

デフォルト値

ブランク (IBM Marketing Operationsの始動直後)。

notifyEmailMonitorPollPeriod

説明

E メール・モニターがポーリングとポーリングの間にスリープするおおよその時間 (秒) を定義します。

注: イベントと同様に、ポーリング期間とポーリング期間の間、E メール・メッセージはキューに累積されます。ポーリング時間が短いほど E メール・メッセージが早く送信されますが、システムのオーバーヘッドが大きくなる場合があります。

デフォルト値

60 (秒)

notifyEmailMonitorJavaMailSession

説明

E メール通知に使用する、既存の初期化済み JavaMail セッションの JNDI 名。これが未指定であり、委任が「完了」とマークされている場合は、IBM Marketing Operations がセッションを作成できるように JavaMail ホスト・パラメーターを指定する必要があります。

デフォルト値

ブランク

notifyEmailMonitorJavaMailProtocol

説明

E メール通知に使用するメール・サーバー・トランスポート・プロトコルを指定します。

デフォルト値

smtp

notifyEmailMonitorRemoveSize

説明

1 回にキューから削除する E メール・メッセージ数を指定します。E メール・モニターは、E メール・キューからメッセージを、この値で指定された数ずつ削除し、これをキューが空になるまで続けます。

注: E メール処理のパフォーマンスを向上させるために、この値を 1 以外の数に設定することもできます。ただし、削除された E メール・メッセージが処理される前にサービス・ホストがダウンした場合、メッセージが失われる恐れがあります。

デフォルト値

10 (メッセージ)

notifyEmailMonitorMaximumResends

説明

最初の送信試行が失敗した E メール・メッセージの送信を試行する最大回数を指定します。送信が失敗した場合、E メールは、このパラメーターで許可される最大試行回数に到達するまでキューに戻されます。

例えば、**notifyEmailMonitorPollPeriod** が 60 秒ごとにポーリングするよう設定されているとします。**notifyEmailMonitorMaximumResends** プロパティを試行回数 60 に設定すると、E メール・モニターは失敗したメッセージをポーリングごと (つまり毎分) に 1 回、最大 1 時間、再試行を試みます。値 1440 (24x60) を設定した場合、E メール・モニターは、1 分間隔で最大 24 時間試行します。

デフォルト値

1 (試行)

showUserNameInEmailNotificationTitle

説明

IBM Marketing Operations 通知およびアラート・システムで、E メール通知の「差出人」フィールドにユーザー名を入れるかどうかを指定します。

注: この設定は、IBM Marketing Operations の通知およびアラート・システムによって送信される E メール・メッセージにのみ適用されます。

有効な値

- True : Marketing Operations はメッセージ・タイトルの後ろにユーザー名を追加し、その両方を Eメールの「差出人」フィールドに表示します。
- False : Marketing Operations はメッセージ・タイトルのみを「差出人」フィールドに表示します。

デフォルト値

False

notifyEMailMonitorJavaMailDebug

説明

JavaMail デバッグ・モードを設定するかどうかを指定します。

有効な値

- True: JavaMail デバッグを有効にします。
- False : デバッグ・トレースを無効にします。

デフォルト値

False

Marketing Operations | umoConfiguration | Notifications | project

これらのプロパティは、IBM Marketing Operationsにおけるプロジェクト・アラームについての情報を指定します。

notifyProjectAlarmMonitorStartTime

説明

IBM Marketing Operations の始動後、初めてプロジェクト・アラーム・モニターが実行される時刻を指定します。値の形式は、現行ロケールの `java.text.DateFormat` クラスのショート・バージョンに従ってください。例えば、米国英語ロケールの場合、有効なストリングとしては 11:59 pm などが考えられます。デフォルトを削除し、値をブランクのままにすると、このモニターは、作成された直後に開始します。

デフォルト値

10:00 pm

notifyProjectAlarmMonitorPollPeriod

説明

プロジェクト・アラーム・モニターおよびプログラム・アラーム・モニターがポーリングとポーリングの間にスリープするおおよその時間 (秒) を定義します。

デフォルト値

ブランク (60 秒)

notifyProjectAlarmMonitorScheduledStartCondition

説明

プロジェクトの開始日の何日前に、IBM Marketing Operations がユーザーに通知を送信するかを定義します。

注: この値が -1 の場合、Marketing Operations はこれらの通知を送信しません。

デフォルト値

1 (日)

notifyProjectAlarmMonitorScheduledEndCondition

説明

プロジェクトの終了日の何日前に、 IBM Marketing Operations がユーザーに終了通知を送信するかを定義します。

注: この値が -1 の場合、Marketing Operations はこれらの通知を送信しません。

デフォルト値

3 (日)

notifyProjectAlarmMonitorTaskScheduledStartCondition

説明

タスクの開始日の何日前に、 IBM Marketing Operations がユーザー開始通知を送信するかを定義します。

注: この値が -1 の場合、Marketing Operations はこれらの通知を送信しません。

デフォルト値

1 (日)

notifyProjectAlarmMonitorTaskScheduledEndCondition

説明

タスクの終了日の何日前に、 IBM Marketing Operations がユーザーに終了通知を送信するかを定義します。

注: この値が -1 の場合、Marketing Operations はこれらの通知を送信しません。

デフォルト値

3 (日)

notifyProjectAlarmMonitorTaskLateCondition

説明

タスクの開始日の何日後に、 IBM Marketing Operations がユーザーに、タスクが開始しなかったことを示す通知を送信するかを定義します。

注: この値が -1 の場合、Marketing Operations はこれらの通知を送信しません。

デフォルト値

3 (日)

notifyProjectAlarmMonitorTaskOverdueCondition

説明

タスクの終了日の何日後に、 IBM Marketing Operations がユーザーに、タスクが終了しなかったことを示す通知を送信するかを定義します。

注: この値が -1 の場合、Marketing Operations はこれらの通知を送信しません。

デフォルト値

3 (日)

notifyProjectAlarmMonitorTaskScheduledMilestoneCondition

説明

マイルストーン・タスクの開始日の何日前に、 IBM Marketing Operations が通知を送信するかを定義します。

注: この値が -1 の場合、Marketing Operations はこれらの通知を送信しません。

デフォルト値

1 (日)

Marketing Operations | umoConfiguration | Notifications | projectRequest

これらのプロパティは、IBM Marketing Operationsにおけるプロジェクト要求アラームについての情報を指定します。

notifyRequestAlarmMonitorLateCondition

説明

要求が遅れているという通知を IBM Marketing Operations が送信する日数を定義します。

注: この値が -1 の場合、Marketing Operations はこれらの通知を送信しません。

デフォルト値

3 (日)

notifyRequestAlarmMonitorScheduledEndCondition

説明

要求の終了日の何日前に、 IBM Marketing Operations がユーザーに終了通知を送信するかを定義します。

注: この値が -1 の場合、Marketing Operations はこれらの通知を送信しません。

デフォルト値

1 (日)

Marketing Operations | umoConfiguration | Notifications | program notifyProgramAlarmMonitorScheduledStartCondition

説明

プログラムの開始日の何日前に、 IBM Marketing Operations がユーザーに開始通知を送信するかを定義します。

注: この値が -1 の場合、Marketing Operations はこれらの通知を送信しません。

デフォルト値

1 (日)

notifyProgramAlarmMonitorScheduledEndCondition

説明

プログラムの終了日の何日前に、 IBM Marketing Operations がユーザーに終了通知を送信するかを定義します。

注: この値が -1 の場合、Marketing Operations はこれらの通知を送信しません。

デフォルト値

3 (日)

Marketing Operations | umoConfiguration | Notifications | marketingObject

これらのプロパティは、IBM Marketing Operationsにおけるマーケティング・オブジェクト・アラームについての情報を指定します。

notifyComponentAlarmMonitorScheduledStartCondition

説明

マーケティング・オブジェクトの開始日の何日前に、 IBM Marketing Operations がユーザーに開始通知を送信するかを指定します。

注: この値が -1 の場合、Marketing Operations はこれらの通知を送信しません。

デフォルト値

1 (日)

notifyComponentAlarmMonitorScheduledEndCondition

説明

マーケティング・オブジェクトの終了日の何日前に、 IBM Marketing Operations がユーザーに終了通知を送信するかを指定します。

注: この値が -1 の場合、Marketing Operations はこれらの通知を送信しません。

デフォルト値

3 (日)

Marketing Operations | umoConfiguration | Notifications | approval

これらのプロパティは、IBM Marketing Operationsにおける承認アラームについての情報を指定します。

notifyApprovalAlarmMonitorStartTime

説明

IBM Marketing Operations の始動後、初めて承認アラーム・モニターが処理を開始する時刻を指定します。値の形式は、現行ロケールの `java.text.DateFormat` クラスのショート・バージョンに従ってください。例えば、米国英語ロケールの場合、有効なストリングとしては 11:59 pm などが考えられます。デフォルトを削除し、この値をブランクのままにすると、モニターは、作成された直後に開始します。

注: 最良の結果を得るためには、アラーム・モニターの開始をオフピーク時間帯にし、それぞれのモニターの開始時刻をずらすように構成して、データ処理のロードを分散します。

デフォルト値

9:00 pm

notifyApprovalAlarmMonitorPollPeriod

説明

承認アラーム・モニターがポーリングとポーリングの間にスリープするおおよその時間 (秒) を指定します。

デフォルト値

ブランク (60 秒)

notifyApprovalAlarmMonitorLateCondition

説明

承認の開始日の何日後に、システムがユーザーに承認が遅れていることを通知し始めるかを指定します。

注: この値が -1 の場合、Marketing Operations はこれらの通知を送信しません。

デフォルト値

3 (日)

notifyApprovalAlarmMonitorScheduledEndCondition

説明

承認の終了日の何日前に、システムが終了通知をユーザーに送信し始めるかを指定します。

注: この値が -1 の場合、Marketing Operations はこれらの通知を送信しません。

デフォルト値

1 (日)

Marketing Operations | umoConfiguration | Notifications | asset

これらのプロパティは、IBM Marketing Operations における資産アラームについての情報を指定します。

notifyAssetAlarmMonitorStartTime

説明

IBM Marketing Operations の始動後、初めて資産アラーム・モニターが処理を開始する時刻を指定します。値の形式は、現行ロケールの `java.text.DateFormat` クラスのショート・バージョンに従ってください。例えば、米国英語ロケールの場合、有効なストリングとしては 11:59 pm などが考えられます。デフォルトを削除し、この値をブランクのままにすると、モニターは、作成された直後に開始します。

注: 最良の結果を得るためには、アラーム・モニターの開始をオフピーク時間帯にし、それぞれのモニターの開始時刻をずらすように構成して、データ処理のロードを分散します。

デフォルト値

11:00 pm

notifyAssetAlarmMonitorPollPeriod

説明

資産アラーム・モニターがポーリングとポーリングの間にスリープする時間(秒)を指定します。

デフォルト値

ブランク (60 秒)

notifyAssetAlarmMonitorExpirationCondition

説明

資産が期限切れになる何日前に、IBM Marketing Operations がユーザーに対して資産がもうすぐ期限切れになることを通知するかを指定します。

注: この値が -1 の場合、Marketing Operations は有効期限をチェックしません。

デフォルト値

5 (日)

Marketing Operations | umoConfiguration | Notifications | invoice

これらのプロパティは、IBM Marketing Operationsにおける請求書アラームについての情報を指定します。

notifyInvoiceAlarmMonitorStartTime

説明

IBM Marketing Operations の始動後、初めて請求書アラーム・モニターが処理を開始する時刻を指定します。値の形式は、現行ロケールの `java.text.DateFormat` クラスのショート・バージョンに従ってください。例えば、米国英語ロケールの場合、有効なストリングとしては `11:59 pm` などが考えられます。デフォルトを削除し、値をブランクのままにすると、モニターは、作成された直後に開始します。

注： 最良の結果を得るためには、アラーム・モニターの開始をオフピーク時間帯にし、それぞれのモニターの開始時刻をずらすように構成して、データ処理のロードを分散します。

デフォルト値

9:00 pm

notifyInvoiceAlarmMonitorDueCondition

説明

期日の何日前に、IBM Marketing Operations がユーザーに対して請求書の期日が近づいていることを通知するかを指定します。

注： この値が `-1` の場合、Marketing Operations はこれらの通知を送信しません。

デフォルト値

5 (日)

IBM 技術サポートへの連絡

文書を参照しても解決できない問題があるなら、指定されているサポート窓口を通じて IBM 技術サポートに電話することができます。このセクションの情報を使用するなら、首尾よく効率的に問題を解決することができます。

サポート窓口が指定されていない場合は、IBM 管理者にお問い合わせください。

収集する情報

IBM 技術サポートに連絡する前に、以下の情報を収集しておいてください。

- 問題の性質の要旨。
- 問題発生時に表示されるエラー・メッセージの詳細な記録。
- 問題を再現するための詳しい手順。
- 関連するログ・ファイル、セッション・ファイル、構成ファイル、およびデータ・ファイル。
- 「システム情報」の説明に従って入手した製品およびシステム環境に関する情報。

システム情報

IBM 技術サポートに電話すると、実際の環境に関する情報について尋ねられることがあります。

問題が発生してもログインは可能である場合、情報の大部分は「バージョン情報」ページで入手できます。そのページには、インストールされている IBM のアプリケーションに関する情報が表示されます。

「バージョン情報」ページは、「ヘルプ」>「バージョン情報」を選択することにより表示できます。「バージョン情報」ページを表示できない場合、どの IBM アプリケーションについても、そのインストール・ディレクトリーの下にある `version.txt` ファイルを表示することにより、各アプリケーションのバージョン番号を入手できます。

IBM 技術サポートのコンタクト情報

IBM 技術サポートとの連絡を取る方法については、IBM 製品技術サポートの Web サイト (http://www-947.ibm.com/support/entry/portal/open_service_request) を参照してください。

注: サポート要求を入力するには、IBM アカウントでログインする必要があります。可能な場合、このアカウントは、IBM 顧客番号とリンクされている必要があります。アカウントを IBM 顧客番号に関連付ける方法については、Support Portal の「サポート・リソース」>「ライセンス付きソフトウェア・サポート」を参照してください。

特記事項

本書は米国 IBM が提供する製品およびサービスについて作成したものです。

本書に記載の製品、サービス、または機能が日本においては提供されていない場合があります。日本で利用可能な製品、サービス、および機能については、日本 IBM の営業担当員にお尋ねください。本書で IBM 製品、プログラム、またはサービスに言及していても、その IBM 製品、プログラム、またはサービスのみが使用可能であることを意味するものではありません。これらに代えて、IBM の知的所有権を侵害することのない、機能的に同等の製品、プログラム、またはサービスを使用することができます。ただし、IBM 以外の製品とプログラムの操作またはサービスの評価および検証は、お客様の責任で行っていただきます。

IBM は、本書に記載されている内容に関して特許権 (特許出願中のものを含む) を保有している場合があります。本書の提供は、お客様にこれらの特許権について実施権を許諾することを意味するものではありません。実施権についてのお問い合わせは、書面にて下記宛先にお送りください。

〒103-8510
東京都中央区日本橋箱崎町19番21号
日本アイ・ビー・エム株式会社
法務・知的財産
知的財産権ライセンス渉外

以下の保証は、国または地域の法律に沿わない場合は、適用されません。IBM およびその直接または間接の子会社は、本書を特定物として現存するままの状態を提供し、商品性の保証、特定目的適合性の保証および法律上の瑕疵担保責任を含むすべての明示もしくは黙示の保証責任を負わないものとします。国または地域によっては、法律の強行規定により、保証責任の制限が禁じられる場合、強行規定の制限を受けるものとします。

この情報には、技術的に不適切な記述や誤植を含む場合があります。本書は定期的に見直され、必要な変更は本書の次版に組み込まれます。IBM は予告なしに、随時、この文書に記載されている製品またはプログラムに対して、改良または変更を行うことがあります。

本書において IBM 以外の Web サイトに言及している場合がありますが、便宜のため記載しただけであり、決してそれらの Web サイトを推奨するものではありません。それらの Web サイトにある資料は、この IBM 製品の資料の一部ではありません。それらの Web サイトは、お客様の責任でご使用ください。

IBM は、お客様が提供するいかなる情報も、お客様に対してなんら義務も負うことのない、自ら適切と信ずる方法で、使用もしくは配布することができるものとします。

本プログラムのライセンス保持者で、(i) 独自に作成したプログラムとその他のプログラム (本プログラムを含む) との間での情報交換、および (ii) 交換された情報の相互利用を可能にすることを目的として、本プログラムに関する情報を必要とする方は、下記に連絡してください。

IBM Corporation
170 Tracer Lane
Waltham, MA 02451
U.S.A.

本プログラムに関する上記の情報は、適切な使用条件の下で使用することができますが、有償の場合もあります。

本書で説明されているライセンス・プログラムまたはその他のライセンス資料は、IBM 所定のプログラム契約の契約条項、IBM プログラムのご使用条件、またはそれと同等の条項に基づいて、IBM より提供されます。

この文書に含まれるいかなるパフォーマンス・データも、管理環境下で決定されたものです。そのため、他の操作環境で得られた結果は、異なる可能性があります。一部の測定が、開発レベルのシステムで行われた可能性があります。その測定値が、一般に利用可能なシステムのもと同じである保証はありません。さらに、一部の測定値が、推定値である可能性があります。実際の結果は、異なる可能性があります。お客様は、お客様の特定の環境に適したデータを確かめる必要があります。

IBM 以外の製品に関する情報は、その製品の供給者、出版物、もしくはその他の公に利用可能なソースから入手したものです。IBM は、それらの製品のテストは行っておりません。したがって、他社製品に関する実行性、互換性、またはその他の要求については確証できません。IBM 以外の製品の性能に関する質問は、それらの製品の供給者にお願いします。

IBM の将来の方向または意向に関する記述については、予告なしに変更または撤回される場合があります、単に目標を示しているものです。

表示されている IBM の価格は IBM が小売り価格として提示しているもので、現行価格であり、通知なしに変更されるものです。卸価格は、異なる場合があります。

本書には、日常の業務処理で用いられるデータや報告書の例が含まれています。より具体性を与えるために、それらの例には、個人、企業、ブランド、あるいは製品などの名前が含まれている場合があります。これらの名称はすべて架空のものであり、名称や住所が類似する企業が実在しているとしても、それは偶然にすぎません。

著作権使用許諾:

本書には、様々なオペレーティング・プラットフォームでのプログラミング手法を例示するサンプル・アプリケーション・プログラムがソース言語で掲載されています。お客様は、サンプル・プログラムが書かれているオペレーティング・プラットフォームのアプリケーション・プログラミング・インターフェースに準拠したアプリケーション・プログラムの開発、使用、販売、配布を目的として、いかなる形式においても、IBM に対価を支払うことなくこれを複製し、改変し、配布することが

できます。このサンプル・プログラムは、あらゆる条件下における完全なテストを経ていません。従って IBM は、これらのサンプル・プログラムについて信頼性、利便性もしくは機能性があることをほのめかしたり、保証することはできません。これらのサンプル・プログラムは特定物として現存するままの状態を提供されるものであり、いかなる保証も提供されません。IBM は、お客様の当該サンプル・プログラムの使用から生ずるいかなる損害に対しても一切の責任を負いません。

この情報をソフトコピーでご覧になっている場合は、写真やカラーの図表は表示されない場合があります。

商標

IBM、IBM ロゴ、および ibm.com は、世界の多くの国で登録された International Business Machines Corporation の商標です。他の製品名およびサービス名等は、それぞれ IBM または各社の商標である場合があります。現時点での IBM の商標リストについては、www.ibm.com/legal/copytrade.shtml をご覧ください。

プライバシー・ポリシーおよび利用条件の考慮事項

サービス・ソリューションとしてのソフトウェアも含めた IBM ソフトウェア製品（「ソフトウェア・オファリング」）では、製品の使用に関する情報の収集、エンド・ユーザーの使用感の向上、エンド・ユーザーとの対話またはその他の目的のために、Cookie はじめさまざまなテクノロジーを使用することがあります。Cookie とは Web サイトからお客様のブラウザーに送信できるデータで、お客様のコンピューターを識別するタグとしてそのコンピューターに保存されることがあります。多くの場合、これらの Cookie により個人情報が収集されることはありません。ご使用の「ソフトウェア・オファリング」が、これらの Cookie およびそれに類するテクノロジーを通じてお客様による個人情報の収集を可能にする場合、以下の具体的事項を確認ください。

このソフトウェア・オファリングは、展開される構成に応じて、セッション管理、お客様の利便性の向上、または利用の追跡または機能上の目的のために、それぞれのお客様のユーザー名、およびその他の個人情報を、セッションごとの Cookie および持続的な Cookie を使用して収集する場合があります。これらの Cookie は無効にできますが、その場合、これらを有効にした場合の機能を活用することはできません。

Cookie およびこれに類するテクノロジーによる個人情報の収集は、各国の適用法令等による制限を受けます。この「ソフトウェア・オファリング」が Cookie およびさまざまなテクノロジーを使用してエンド・ユーザーから個人情報を収集する機能を提供する場合、お客様は、個人情報を収集するにあたって適用される法律、ガイドライン等を遵守する必要があります。これには、エンドユーザーへの通知や同意取得の要求も含まれますがそれらには限られません。

お客様は、IBM の使用にあたり、(1) IBM およびお客様のデータ収集と使用に関する方針へのリンクを含む、お客様の Web サイト利用条件（例えば、プライバシー・ポリシー）への明確なリンクを提供すること、(2) IBM がお客様に代わり閲覧者のコンピューターに、Cookie およびクリア GIF または Web ビーコンを配置することを通知すること、ならびにこれらのテクノロジーの目的について説明すること、

および (3) 法律で求められる範囲において、お客様または IBM が Web サイトへの閲覧者の装置に Cookie およびクリア GIF または Web ビーコンを配置する前に、閲覧者から合意を取り付けること、とします。

このような目的での Cookie を含むさまざまなテクノロジーの使用について詳しくは、IBM の『IBM オンラインでのプライバシー・ステートメント』(<http://www.ibm.com/privacy/details/jp/ja/>) の『クッキー、ウェブ・ビーコン、その他のテクノロジー』を参照してください。



Printed in Japan